



諸國
圖會

年中行事大成

六

76
3382
6



諸國年中行事大成卷之四

六月之郡目錄

- | | | | | |
|-----|----------|--------|-------|--------|
| 十日 | 北野九度祭 | 鳥越祭 | 惠公傍都忌 | 外宮神池渡 |
| 九日 | 北野九度祭 | 鳥越祭 | 惠公傍都忌 | 外宮神池渡 |
| 八日 | 蛙死神事 | 四條河原夕涼 | 天王祭 | 保久羅祭 |
| 七日 | 祇園會 | 四條河原夕涼 | 天王祭 | 保久羅祭 |
| 六日 | 比叡山傳教會 | 三井寺大會 | 龍王祭 | 多賀神社夏祭 |
| 五日 | 高雄山神權寺虫拂 | 三井寺大會 | 龍王祭 | 多賀神社夏祭 |
| 四日 | 比叡山傳教會 | 三井寺大會 | 龍王祭 | 多賀神社夏祭 |
| 三日 | 大德寺織田信長忌 | 湯殿禪定 | 勝鬘會 | 富士祭 |
| 二日 | 富士禪定 | 湯殿禪定 | 勝鬘會 | 富士祭 |
| 一日 | 祇園會 | 湯殿禪定 | 勝鬘會 | 富士祭 |
| 朔日 | 寶物虫拂 | 湯殿禪定 | 勝鬘會 | 富士祭 |
| 不定日 | 寶物虫拂 | 湯殿禪定 | 勝鬘會 | 富士祭 |

十日 神今食

鮮齋淨德

藤森淨田

十一日 三村祭

明智風呂

住吉淨興院并泥湯

十二日 祇園會

熱田祭

淨華院虫拂

十三日 妙音講

吉田天王祭

山王祭

十四日 氷川祭

津島親音祭

天王寺蓮華會

十五日 廣島祭

津島祭

博多祇園會

十六日 嘉定喰

吉田天王祭

竹生傳祭

十七日 相國寺懺法

外宮月次祭

志度寺祭

十八日 祇園淨興院

東大寺親言懺法

三寺寺札上

十九日 淨手洗祭

座頭之祭

葛川神夏

廿一日 鞍馬竹伐

因幡堂花供

十念寺虫拂

廿二日 梅尾虫拂

大德寺虫拂

永親堂曼陀羅供

廿三日 座摩淨後

水尊微文法樂

報恩寺虫拂

廿四日 四條道場虫拂

聖光寺虫拂

愛宕千日詣

廿五日 北野法樂和歌

虫拂

芝宅岩詣

廿六日 干菜寺六夜

天満淨後

橋本祭

廿七日 春日祭

日永嶽祭

阿蘇祭

廿八日 奉國寺虫拂

津村淨靈宮夏神樂

生玉淨後

廿九日 中堂寺村住吉祭

六角堂辛勝祭

鎮火祭

三十日 上賀茂水月祭

節刊

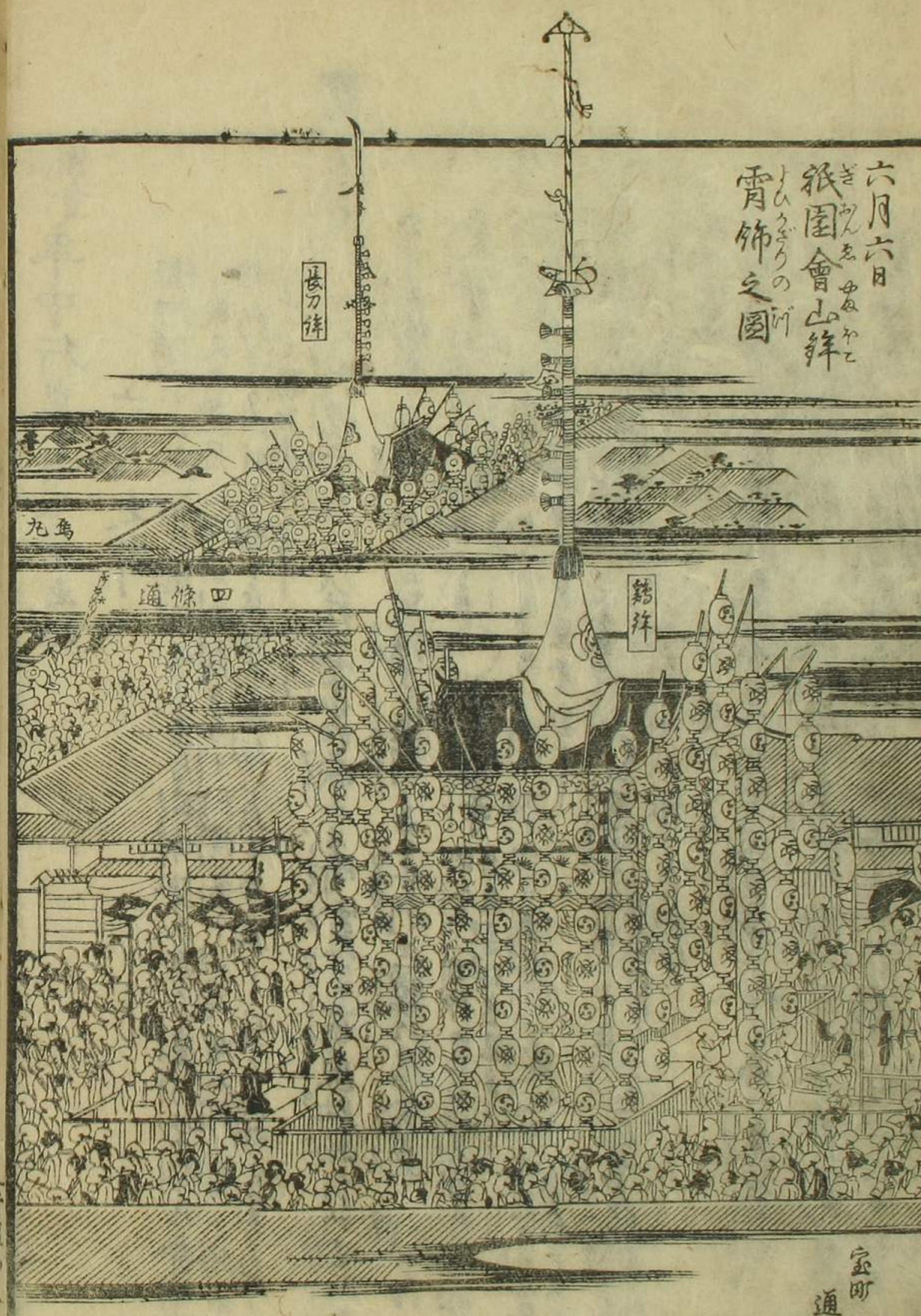
道食祭

施不

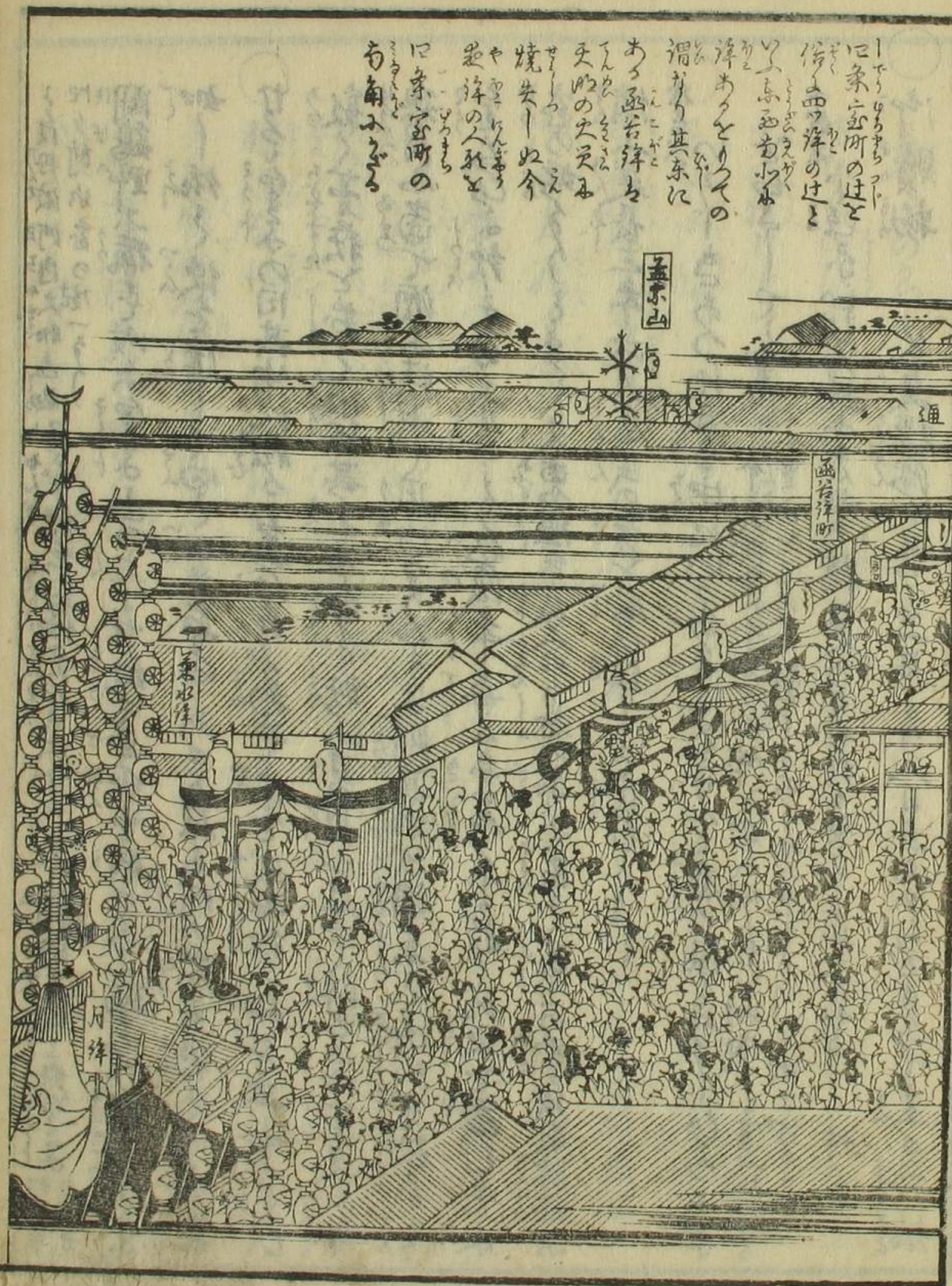
上賀茂六月後

諸社六月後

六月六日
紙園會山
宵飾之園



一、てうゆりやうふと
 に糸立雲所のほど
 俗に西の洋のほど
 といふおあかしめ
 洋あつとりつての
 滑りり其糸に
 ある函台洋と
 云ぬ、又又五
 焼失いぬ今
 や、西にんあつ
 西洋の人と
 曰ふ、雲所の
 南ふなる



七日

祇園會

系昨四條通鴨川の東にあり

系神 系盛為尊

稲田姫

八王子 以上三座

按て今八王子と五男二女神ありて市井島此田心姫 瑞津姫 天穗日食 正哉吾勝勝連日天忍胃

○

三井寺大會

又六月續々今日より七月廿日天宮貞親八年前七月傳教大陣と猛を賜ふ

天皇貞親八年七月傳教大陣と猛を賜ふ

多ふあり十四年二月寺の額に年号改行され延暦寺と賜ひ清和

やして園頓戒壇と山門は建ふ事と許さる是中法初七日より向備へ

行儀を守りて又遺誠六篇あり日月十日右僕射藤原を嗣と勅使

平生は鹿言せむも若と取人を罰せ我門者たり人者若の

十二平六月四日中道院より遷紀年五十六案隆統の時宿云宿

平城の僧徒を引と返人すれども昨戒備を述くこれと難彼を日

寺に以て三部院頂密教を受日廿五年に帰朝を帝桓澄と國師よ

ら信濃天皇弘仁十年二月園宗の大系戒壇と山門は建人支と清

神崇る小百姓神樂と神泉苑も送ふ系年々六月七日也

神院も移と 祇園會乃起貞親十八年疫神崇る日良麻呂京

中の男女と率て六月七日十四日疫神と神泉苑も送ふ其年又疫

神崇る小百姓神樂と神泉苑も送ふ系年々六月七日也

是と猶舎といふ是より後人祇園此名に加へてあけよ今に於て社を

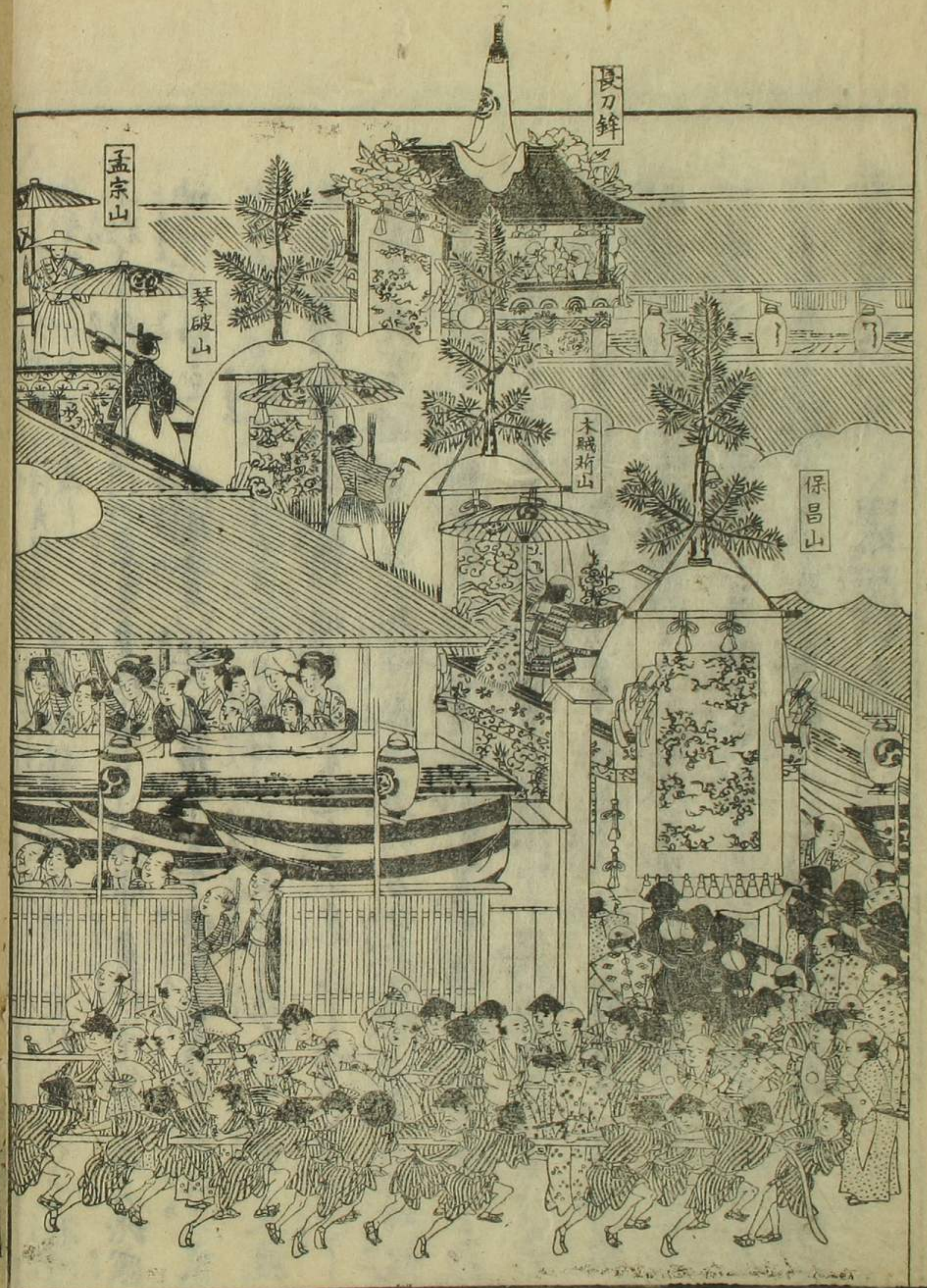
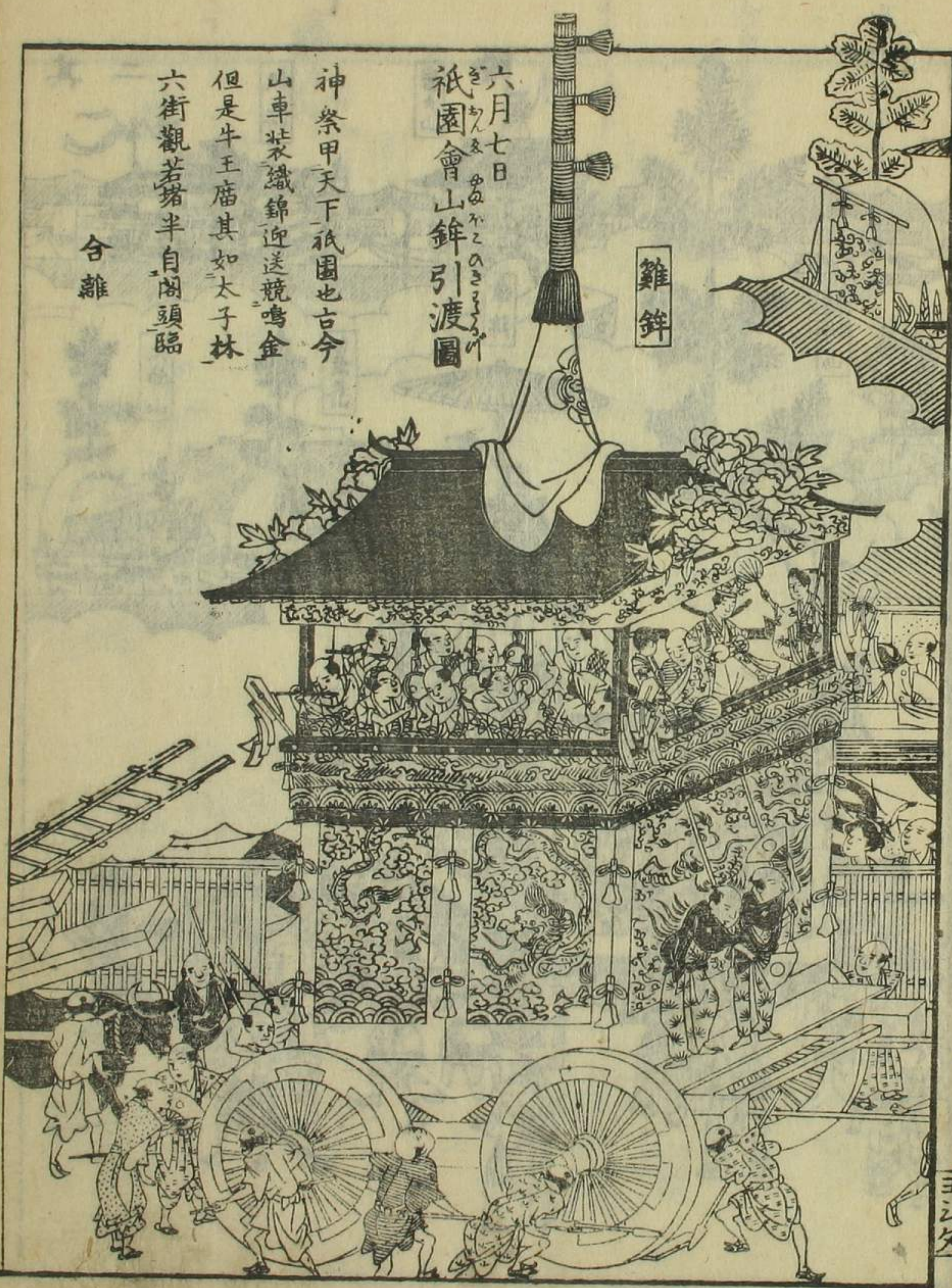
殿全造より 玉海沙云建久二年六月七日甲申天晴日祇園社御樂

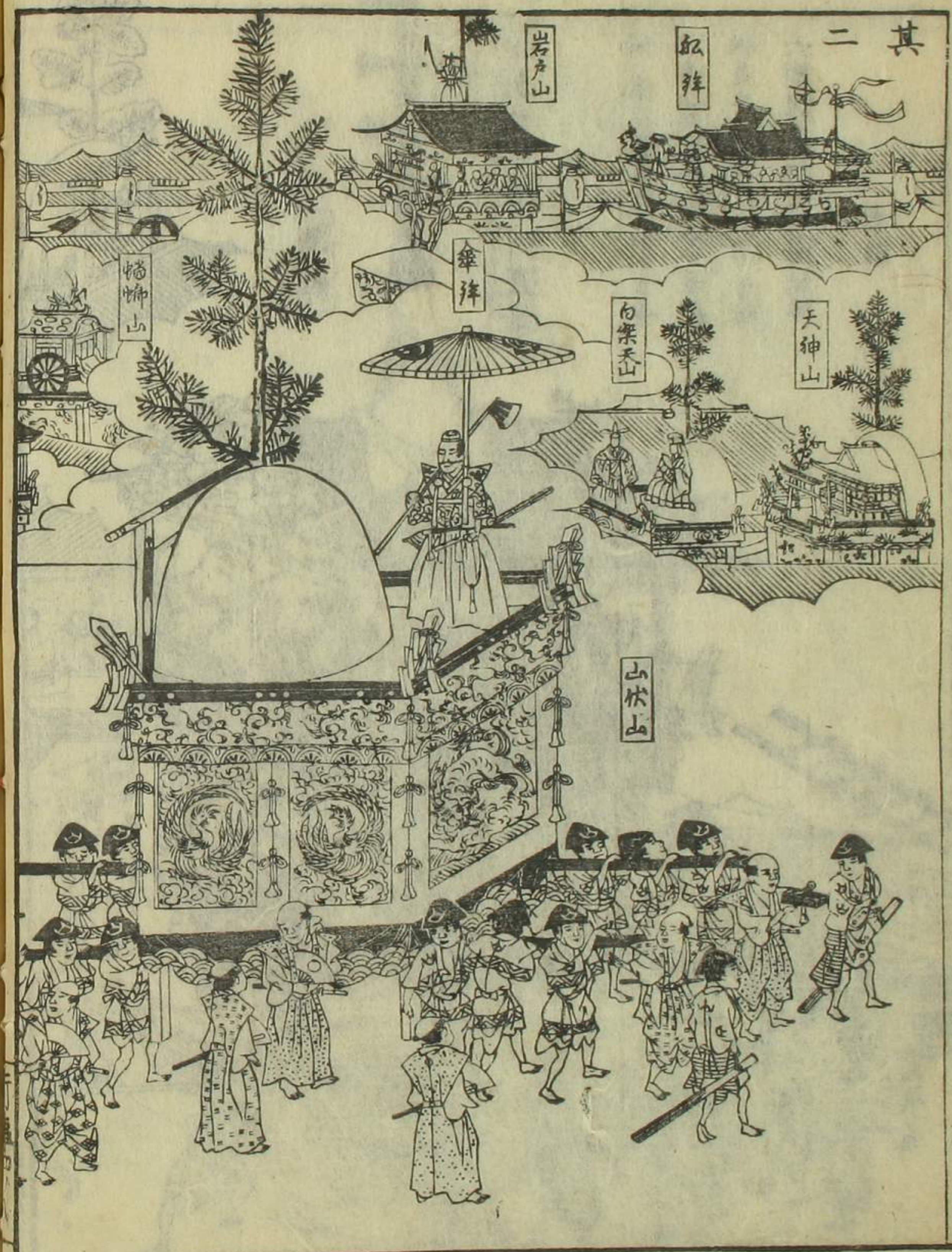
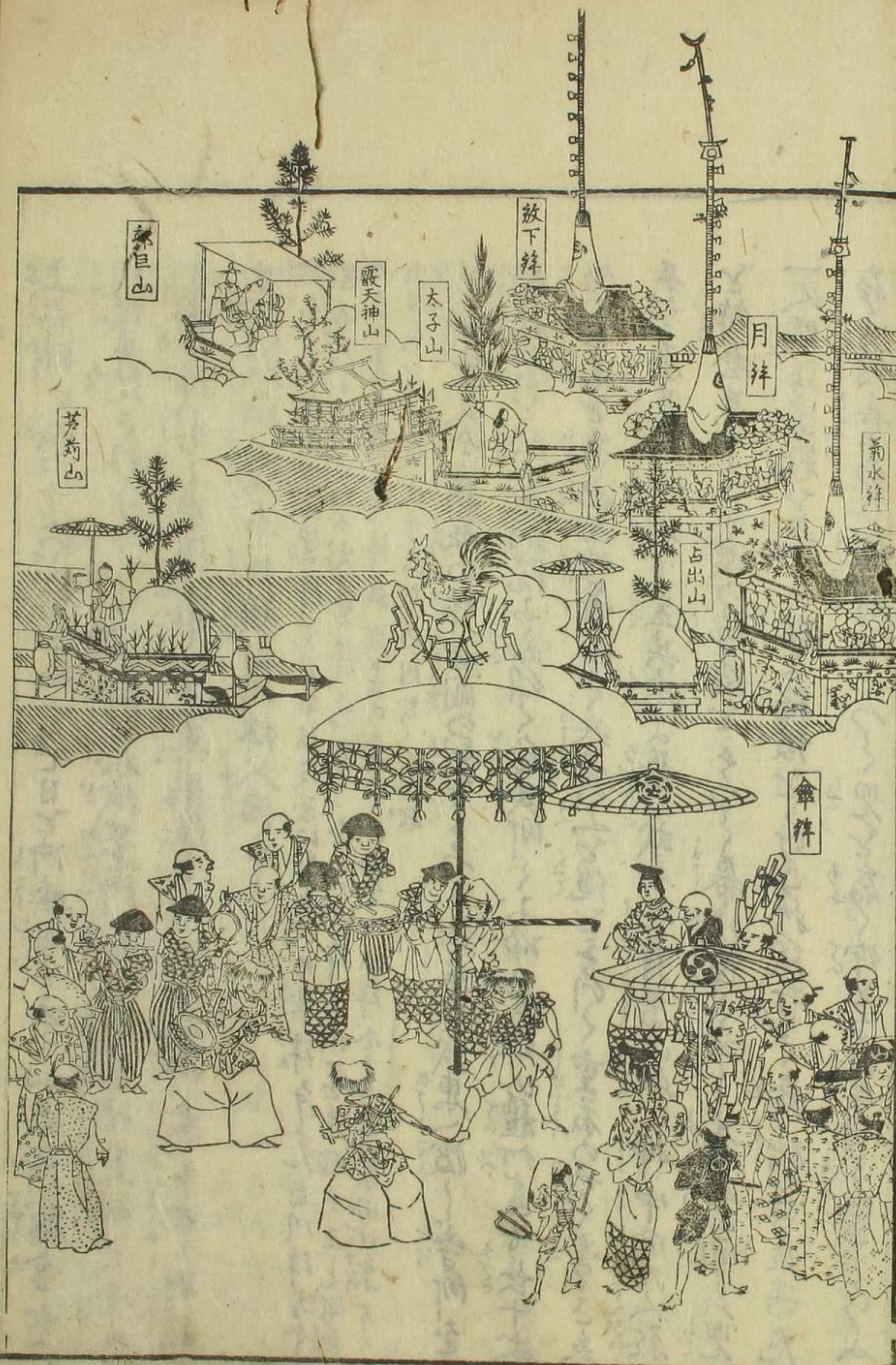
迎也仍て刻限已前持進路より入る魚を服と又云天禄元年六月十

四日始て御靈舎とけり其後中絶より一に天治元年小島興あり

てより今もお祭りとて今も康富記云七日祇園系神幸并降山

已下風流例の如く四條大路と渡若ありと云





室所に糸のむにあうは群うは下にあるん新れ群まで三つの群を
混沌未分の体なり三ツ角は緋の夢と付くるは雲は表に人我
れより月を見る体なり下に糸のれとあり根を墨く

室所に桑のやうあり洋頭桑の花人死を桑倚臺之に附し極子社
ありつゝ一妻山と出せりと延寶亨元年は佛號失に

新所四象のふみありは降霜と云へば又河漢拜と云降頭三光と
うさどる人乳傍^{たがは}なりて羯鼓と持ひ教下^し膝^{ひざ}の作^{つく}なり

て是等と云ふ必だ無難うござ
 池小路後小路の南にあつた洞の中に

綿小路室町の所よりあり宮殿回廊あり菅神の傍成安に永正年間火
 災の起あり一時なりて爰より猛火なりちり消ゆ人煙んで見えず
 大神の傍ありとせしむるて登り上る其後又史記ありて其時

此中爲高辻のやゝあり人形聖蹟を子天王も建立の材木と山姥玉菰寄郡

神功皇后

室洞むろどう綾あやの南にあり人取ひとと白樂天はくらくてん
鳥窠すく道林だうりん彈だん所しよと問答もんたうのイムナリ

四葉郭所の西有^{あり}人^{ひと}郭^{かく}巨^こ令^{しやう}の登^{のぼ}と掘^ほ出^でた^た所^{ところ}
傍^{かた}に臺^{たい}あり古^{ふる}縁^{えん}文^{ぶん}昭^{しやう}の系^{けい}史^しと失^しく今^{いま}郭^{かく}作^{さく}る

俳光と西洲少将の車にあり人取信列とくしんりゅう雪原山
 行く老人本城と新月と見る作しやう古この公と取とる

續少海沖小島の東にあり人孔目下右奥の茅を刈
し竹よりて大和掬源ふき草さぬ之春日俳所の作
西月毫四條のわたり竹所直の二番所一あり

腰中に一抱あり神作と云
 東洞院松原の山あり龍山と云
 又糸巻山と云

綾小路室所の要あり 織のうは金糸と付る 例に見三人
金の烏帽子成袋一多は金幣と持持する一人赤牝と被る

1922

○ 岩戸山

以上并

海とさう接し
て七十六年

今日の費用に充ふと云ふ

式

五月朔日と夜祭と一拂と祇園一帯居の旧地中狭所は立感神院御致部と云
れと寺又二帯居の旧地捨山王の東今石標ある所を拂と云ふ拂は朔日の
朝寅の刻中仕より而くは運ぶ今日中社に於て神樂あり二条堀所の通りく
に東河原より駕る所の市樂橋の事と被本座の頭より渡り
五月廿日祇園舎の例今日より始ふ是夜若舟入と云難色四座の衆中執事
寺院は合あり中合ありまゝに東東洞院の通り至は時役刀洋所乃
ゆき山近の作と承る岳谷洋所より移ふ日にも東東洞院を難武虎の支配
四隅の約り而る今日より洋所より移る難の替古と云ふ
日廿九日市樂石に舞作と建鳥丸佛光寺の南に改刻所又幸社よりこれと云

少將井神雲令の位連を因幡堂^{いんぱんどう}より之を宮者殿と東羽院^{とううゐん}佛光寺^{ぶつこうじ}樹間^{じゅかん}
 町の近所より之を河邊の馬丸太政所^{たせいしよ}より之を馬丸太政所^{たせいしよ}より大長院^{だいぢやうゐん}あり是
 の藤所^{ふじどころ}より又藤所^{ふじどころ}の辭作^{ことわり}と張不設人^{ちやうふせつじん}並氏^{なみぢ}より之を一所の泉源^{いづみ}
 中車道院^{なかぐるみちゐん}より之を惡王子社の辭作^{ことわり}なり

[illegible]

三日 葬所 苑邊 今日 寄町より 山葬の所へ 一地の口采と供ふ
 五日 引初 山葬と 飾り 其所と 引渡を

日六日今晚に座の離職虎六角堂へ着座次は山坪田と云ふ園と云ふ川と
 堀の列と定らるるに右行幸有て觀覽有り附互は茶後と云ふに似たり

難藏小御、こころを發固せしめ、別力、今日、人の心と其間と、小御て
見せしむ、御目より、汗の上、四辺、又、校多の挑、灯の、つげ、酒の、別、より、愛の、別、より、

拜の上は、於難を^レ打^レ今夜、殊上^レサ^レう^レ是と膏飾^レと^レふ
 日七日、卯の^レ難職衆^レ六角堂^レ本^レ意^レを^レ長刀^レ陣所^レと^レ使^レの^レ性^レ渡^レあり^レま^レう^レに^レ衆

高倉庫入南側より長一又長刀鋒間を、使の針^{はり}面ありて、
右機あつゝ旧地方より山鋒は下り、終る本日に取り、電報
新聞衆に隔と

東洞院より別荘とて其間へ入陣す

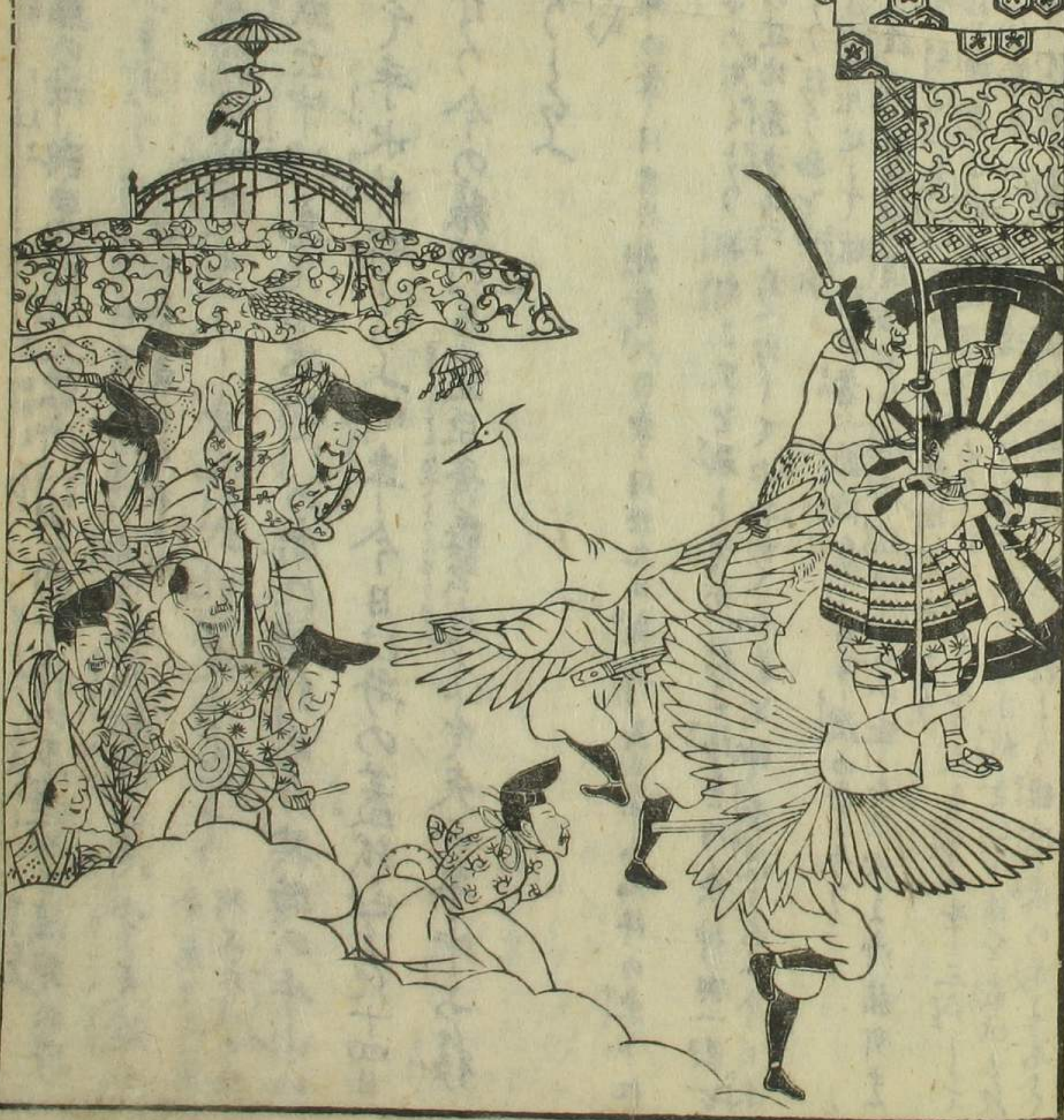
今日申刻神雲三基奉社より四條系極の場所小神幸あり供せ

行列嚴重ニ神樂ト旅所神樂舍小紀不事今日上ニ十四日ニ到

性昔縁所生寺の急小寺
故に今生生るに
 祇園寺あり 或ハ神泉苑ニ神幸此也

心本末之國

いふはある家の所蔵
りて、世に秘藏と云ふ
の圖よりとりて、今の人
物に代するもの名を考
へたるなり。今これ洋
字一冊の辨格に
尺素伸張になれど、
洋字一冊を又半ふ
るより、数分の増お
ちど、その相や、後
の考あべし。



ある成後涼しくも松原のよりわ二条の南すて河系うん敷万の蛇成
 照一葉店及び奇巧奇物或は浮板理動物すぬ曲馬物業様のねと
 鶏鶴のにもね其勝越くの親物小屋とるう二色の産ふ水より床と橋
 蛇と挑てて怪も各日のでく実ふを親る勢多鄙人の目と強しび
 有知なり

江戸

江戸天王系

相傳ふ元祿の北夜痛くは流りも仍く
 なる神田明神の社地も動情ある市の紙雲を三社の神楽城出て街

頭小波と是より後毎年紙園會と行は
 大徳寺所神祿所神興一基五日出雲八日雲興。小松所神祿所神興一基
 十日出雲十二日雲興。南傳る所神祿所神興一基七日出雲十四日雲興
 けり何れも社人馬上下て神祿所神興一基七日出雲十四日雲興
 縁会所東と通所所西國橋と隔りて所々の本を小竹と植或は
 藤より扇子と燈籠とあり

今日家々冷索新とるく客成客は其後浅州御花前の天王系
 八日雲と毎園子の 品川天王系 七日神興 四若天王系 十八日 千住天王系 四日
 天王系とる

保之羅系

攝津守荒原郡北島村あり延喜式より今半頭
 天王とん中莊九村の生土神とん今日神興と社前より飾十四日に至る

村民聚りて祭祀とる
 村民聚りて祭祀とる

蛙神事

大和必吉野藏王堂あり於て蛙とる先蛙役人
 二人堂の傍より蛙を法衣方幡法方の両院多會て法衣あり法衣あり

て蛙役の者忽ち蛙とる蛙の這ふやう又飛揚ふ幸五尺六尺餘はて
 神衣の蛙も飛揚る幸なり日夜行法早く其者解の解るがごとく
 け度聖日小むく一とを受て僅二尺も飛揚る幸なり

九日

北野九度系

今日東向の觀音堂より幸社へ来る幸九度
 とも秋を平日の百度も過すとも

越前神系

浅州元々越前あり幸神天児登相令
 日本武尊以上二座系武陽年あり

日本武尊以上二座系武陽年あり

十日

御躰御卜 今あり 神祇官玉躰御清けきとありん幸と

ひひ奏さる候より白鳳四年に始りし

○惠心僧都忌

比叡山惠心院并安養寺 系統緒系所 郭之

元亨釋書云源信姓ト氏大和國葛本郡の人父之正親母之清氏

信幼少時愛小沙門暗を流せし横川に至る磨毎々愛を

横川を初りて惠心佛心事へて始て愛のて伏思ひをせり其の教を

究免横川より居て一乘要决性生要集 孫陀經疏大乘對俱舍抄因

明相達詮釈智と撰ふ台嶺の教法は時より敏智以惠心院から僧

於号に寛仁元年六月十日寂と趙宗を帝遠く信を道徳の卷に

同傳より傳へて廣廟と立教像成安をせし所

○神池液

伊勢外宮より二の池あり上中下の神池といふ是より人の神

を洗より今日中の神池液大宮より神祇官帽子洗ふと云ふ

十一日

○神今食

以清身云六月十月中和院神今食行幸あり

行幸より時ハ神祇官より行ふと云ふ公更根源云神皇一日より

はまなる成刻より幸なり神祇官より行ふと云ふ相り先官庭より幸

能の程迎湯の極より神樂ありよりすくくくくくくくくくくくく

みよりひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

天照大神と執清よりくくくくくくくくくくくくくくくくくく

靈龜二年六月よりくくくくくくくくくくくくくくくくくく

○解齋御粥

公更根源云神今食のほきありと云ふ

○藤森市田 牛刈

十二日

○堺三村明神系

和泉太皇太后南莊甲斐所の事あり

系神 事勝食勝國長使令 延喜式より後生玉神牛頭天王と

密乘山大会佛寺 又大寺と云ふ 以鎮座あり此地旧塩穴郷 本戸開に原

三箇村の生々神よりくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此地の舊名を六国に明神と云神功皇后韓國より所凱陣の附明神
皇后と云ふは下食を進め給ふに成るに候へまふより用はる
名あり
廿年一に般行若の社造替の時社も造改あり
名あり
廿年一に般行若の社造替の時社も造改あり

○抵園會

玉海云高倉院治承三年六月十四日抵園會

新之馬長常也や兵範記云嘉應元年六月十四日御靈會常の

如く天皇行幸と云
今日辰の卦飾山三條毎東洞院より別と云く其所と云彈子

四条と云く東洞院より別と云く其所と云彈子

○橋辨慶山

指桑昨馬丸の橋あり
赤桑の橋ハ大佛作運の作をカハ有國の能ハ牛馬の像橋の
其橋は赤桑の橋ハ大佛作運の作をカハ有國の能ハ牛馬の像橋の
其橋は赤桑の橋ハ大佛作運の作をカハ有國の能ハ牛馬の像橋の

○黒主山

室町三條の南にあり人取大佛
室町三條の南にあり人取大佛
室町三條の南にあり人取大佛

○淨妙山

六角馬丸の南にあり人取
六角馬丸の南にあり人取
六角馬丸の南にあり人取

○行者山

室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取

○鯉山

室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取

○鈴鹿山

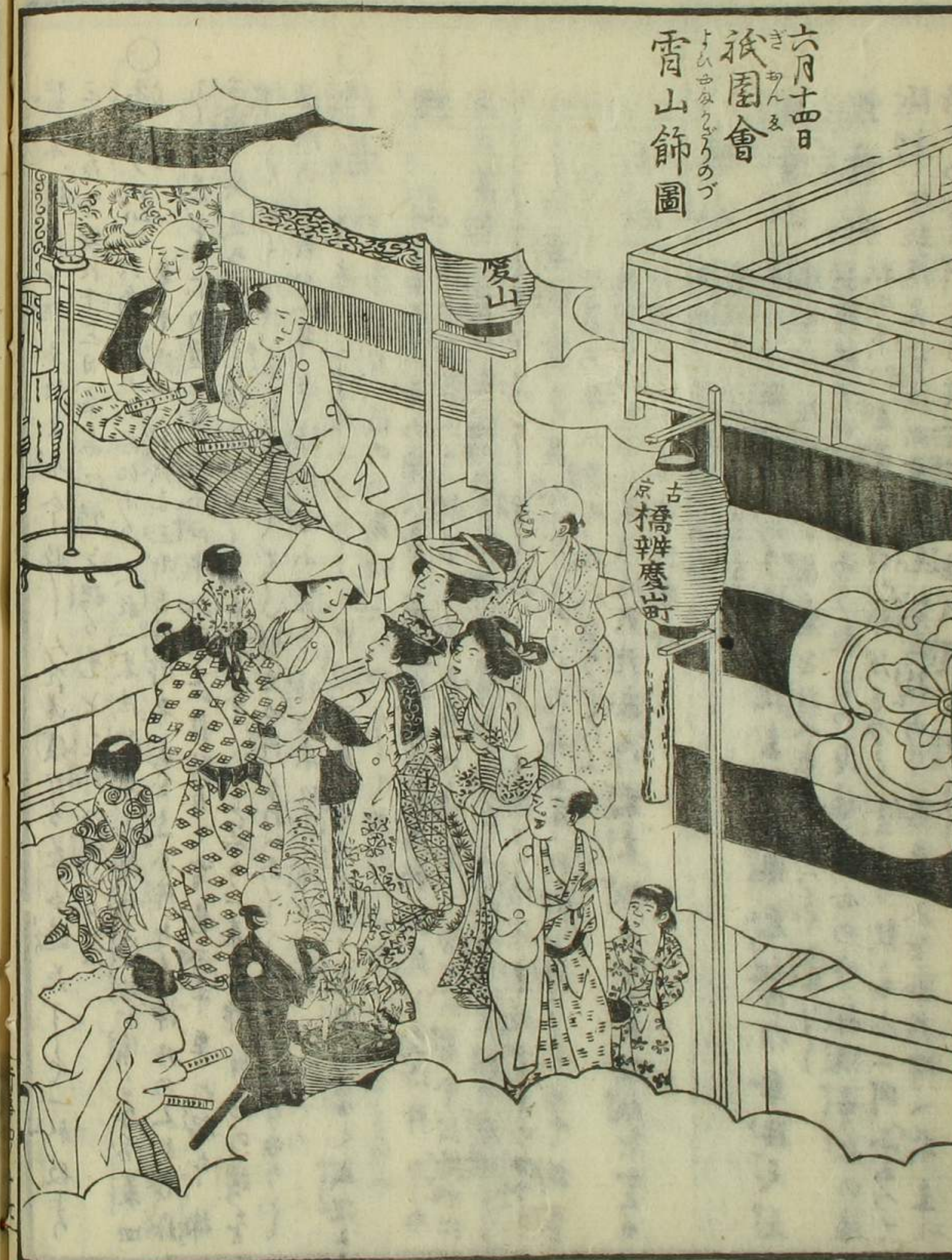
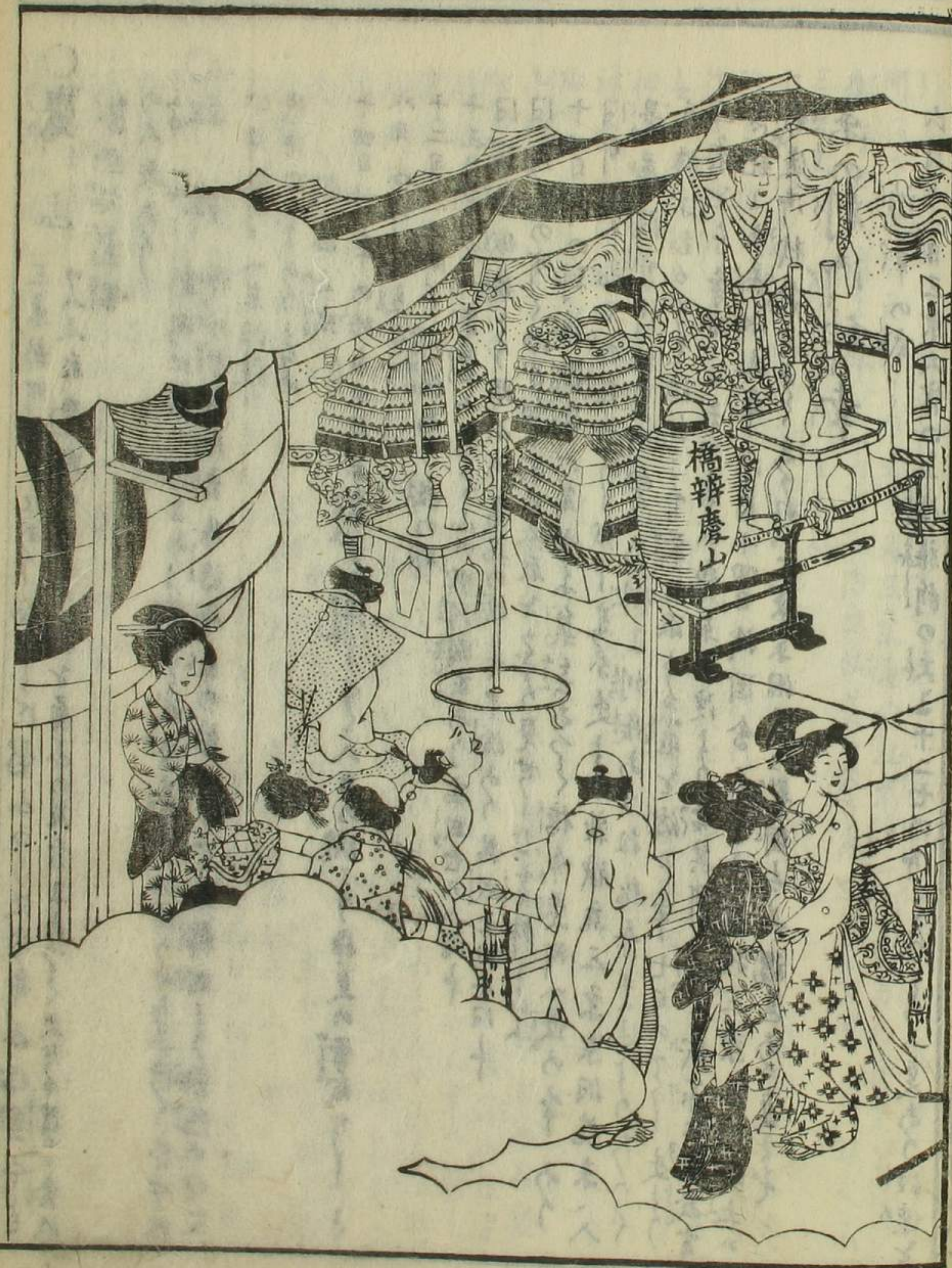
室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取

○八幡山

室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取

○觀音山

室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取
室町三條の南にあり人取



○鷹山

三系新町の東にあり國に属する山なり又古稱山嶺山とも云ふ人取栗嶺の傍より橋を渡り山の方よりありて大なる橋を合に

○新神

新町に在るものなり國に属する山なり又古稱山嶺山とも云ふ人取栗嶺の傍より橋を渡り山の方よりありて大なる橋を合に

○神幸の式

十四日神幸の地を七日とす其日の神幸の式なり
八日山神と云ふ
十二日山の神と云ふ
十三日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十四日新神の神幸の式なり
十五日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十六日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十七日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十八日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十九日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十一日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十二日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十三日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十四日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十五日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十六日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十七日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十八日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十九日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
三十日早天六角堂より山の方へ其式七日とす

未の刻神幸

神幸の式

六月十二日三系大宮の東に在る所の山に十二七の所をけりて又ありて連を

引渡りて是の十一日の神幸の式なり
十四日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十五日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十六日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十七日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十八日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
十九日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十一日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十二日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十三日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十四日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十五日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十六日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十七日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十八日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
二十九日早天六角堂より山の方へ其式七日とす
三十日早天六角堂より山の方へ其式七日とす

わが寺院と慈覺大師の冥基法然上人中興と
新木の靈室
救済のばら

江戸山王系

永田馬場小あり系神日吉山王月日
入間郡川越弘波よりある長祿三年
を延徳年中貝塚に移され明暦三年
地を移る江戸の大社なり石の鳥居五十三段の石階ありて神
鏡より神六石例系神田系と隔年を行ふ
其式系に依りて町内を巡りて西と東と
表裏各山神の表と裏とを是と爲し
十五日未明先拂と後拂とを儀次と爲し
形止り大なり表と裏とを儀次と爲し
所門より入る竹橋より神田橋より
所三町目小橋馬所より神田橋より
長柄橋より山王馬所の別流系作中の

氷川系

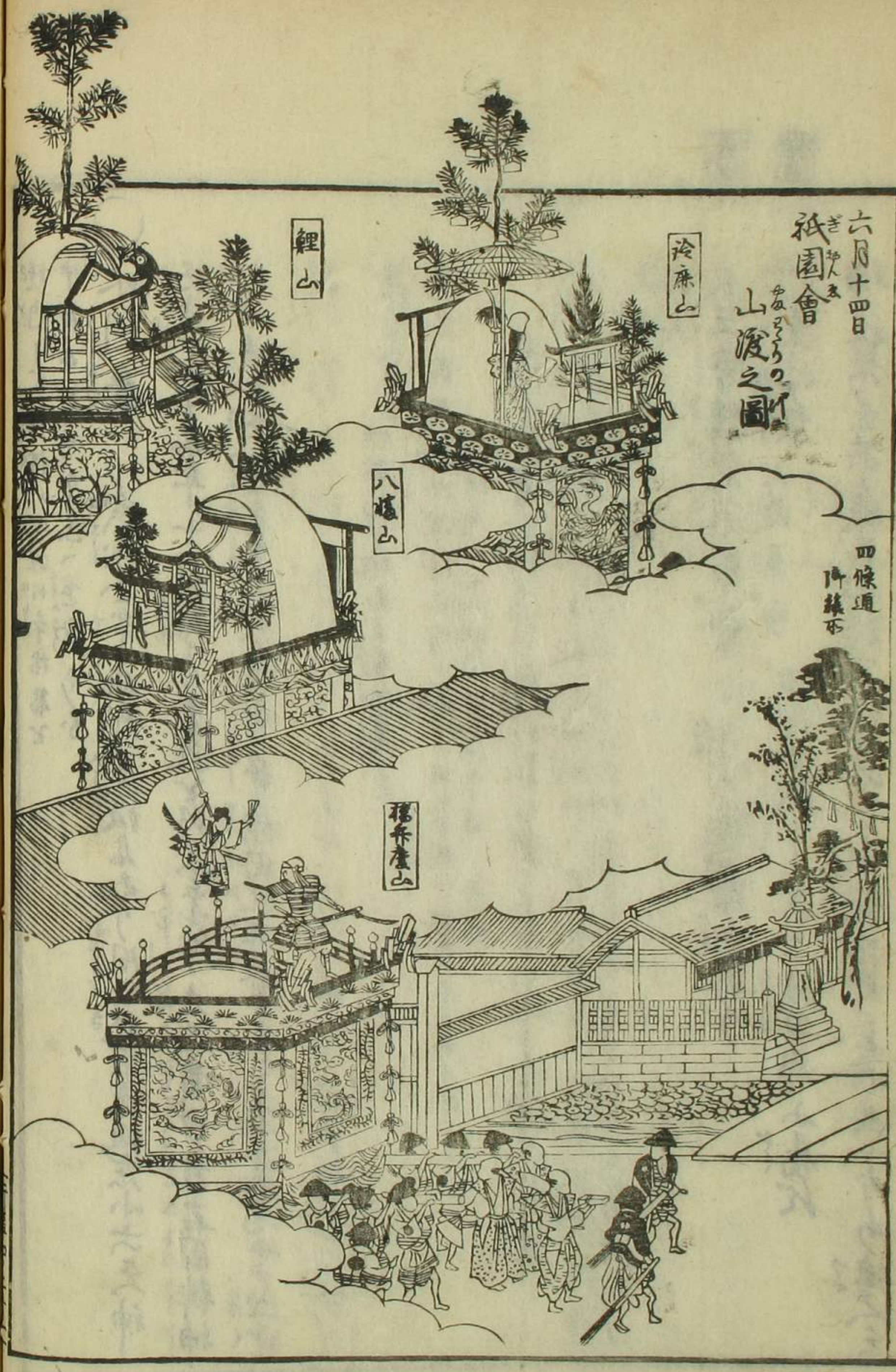
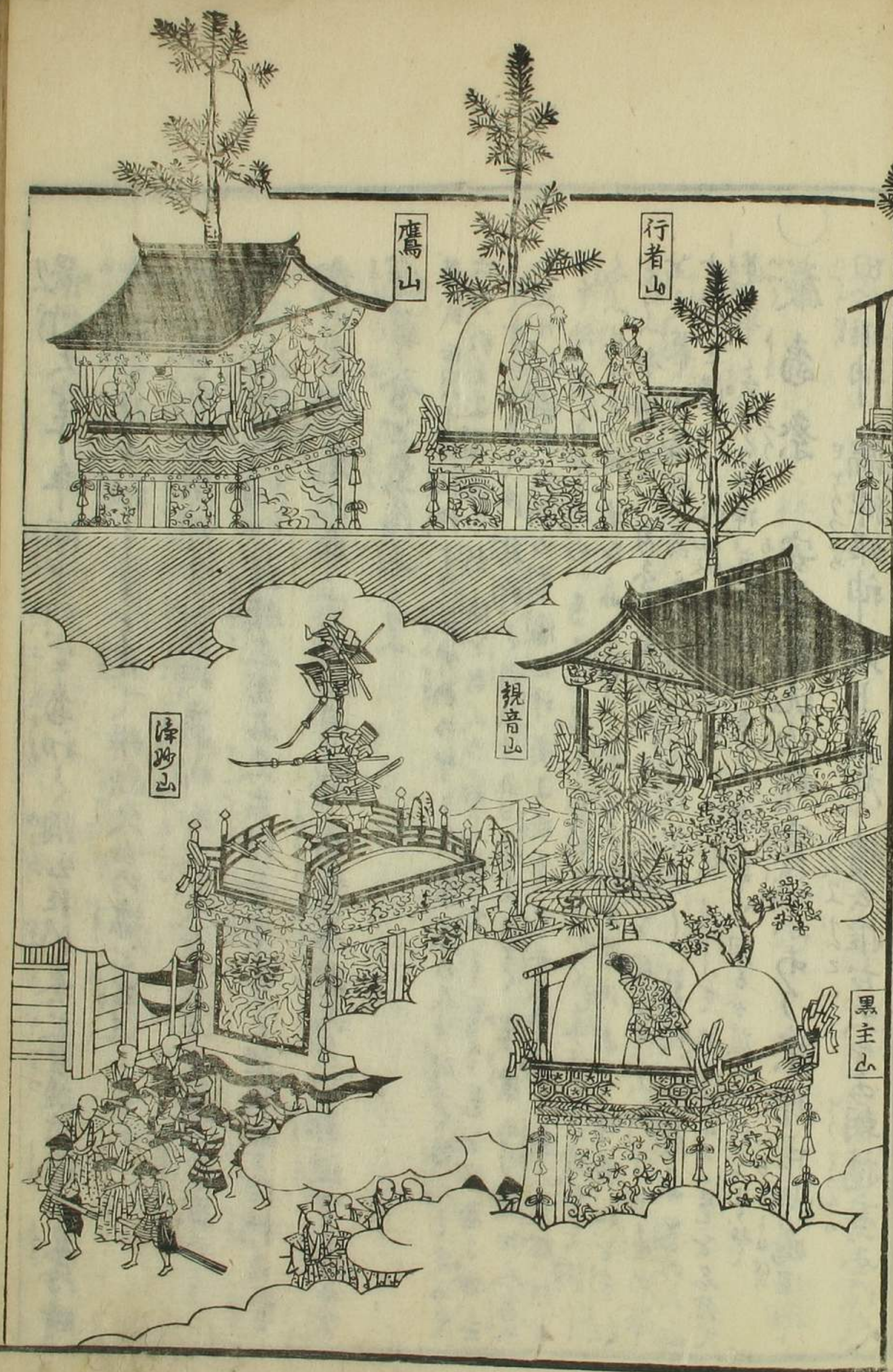
天武天皇三年十月始々系と云ふ系神大己貴少彦名國韓神
之威云々素盞爲る大己貴命奇稻田比咩命云々素盞爲る出雲
郡川上江々之蛇を退治しあみあては社と氷川と号に最水日刻な
出づるなり
氷川面と祈る靈祐著し

浅井系

今日浅井系あり其作回樂法作
御堂といふ浅井系あり其作回樂法作

天王寺講堂蓮華會

近江玉湖中にある浅井郡小属に
神社考云其巖石水精宝珠より幸嗣五奇矣の其一なり傳へ云



景行天皇十年湖中竹生島初く涌出たり其菩薩は乃日本武時
神女形を現む初く寺と建て辨財天女の像と安んじたり

神社啓蒙云祭神宇賀御魂神聖武天皇天平三年垂拱云々

市井本記云祭神社領二百石天台宗本業寺云々と云ふ所傳云聖

武天皇神龜三年六月十五日都良香宮前大后と勅使云々

蓮華舎と云ふ所云々

其式云月十日社務より成井郡の中より嘉慶の人と稱し人として定め

六月朔日又天の勅傳に教人の家より神ありと云ふ是と云ふ所傳云々

十五日勅傳の天女の勅傳と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

田心姫神 湍津姫神 以上三座 傳云推古天皇の朝播磨至人

内舍人統伯鞆藏者國恩賀の賜小虎遷以時小紅の帆と揚る所ある

中み親ありて祥を立赤帶と着け宮端瑞雲の二女告く曰我々神と

守役の者本現に宝殿とけ地は造るや故小推古天皇二十二年

社と云く嚴島神と号を初の名を恩賀傳市井島の神号試

用也今通して宮傳と云け地日本三絶系の其一なり後海山前

と云ふ海虎と京野右の松原南社と山上に立せ給ひて圓廊を平地に

あり海潮満るとれる圓廊の板敷を漫く行人形を指を乾く時と

千浮五十町浮白砂と云ふ神前所云所の神統と祭堂の上には

御もく下る掛もく海中に居あり類と表裏小く伊都岐島

明神と書け山上小座あり

と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

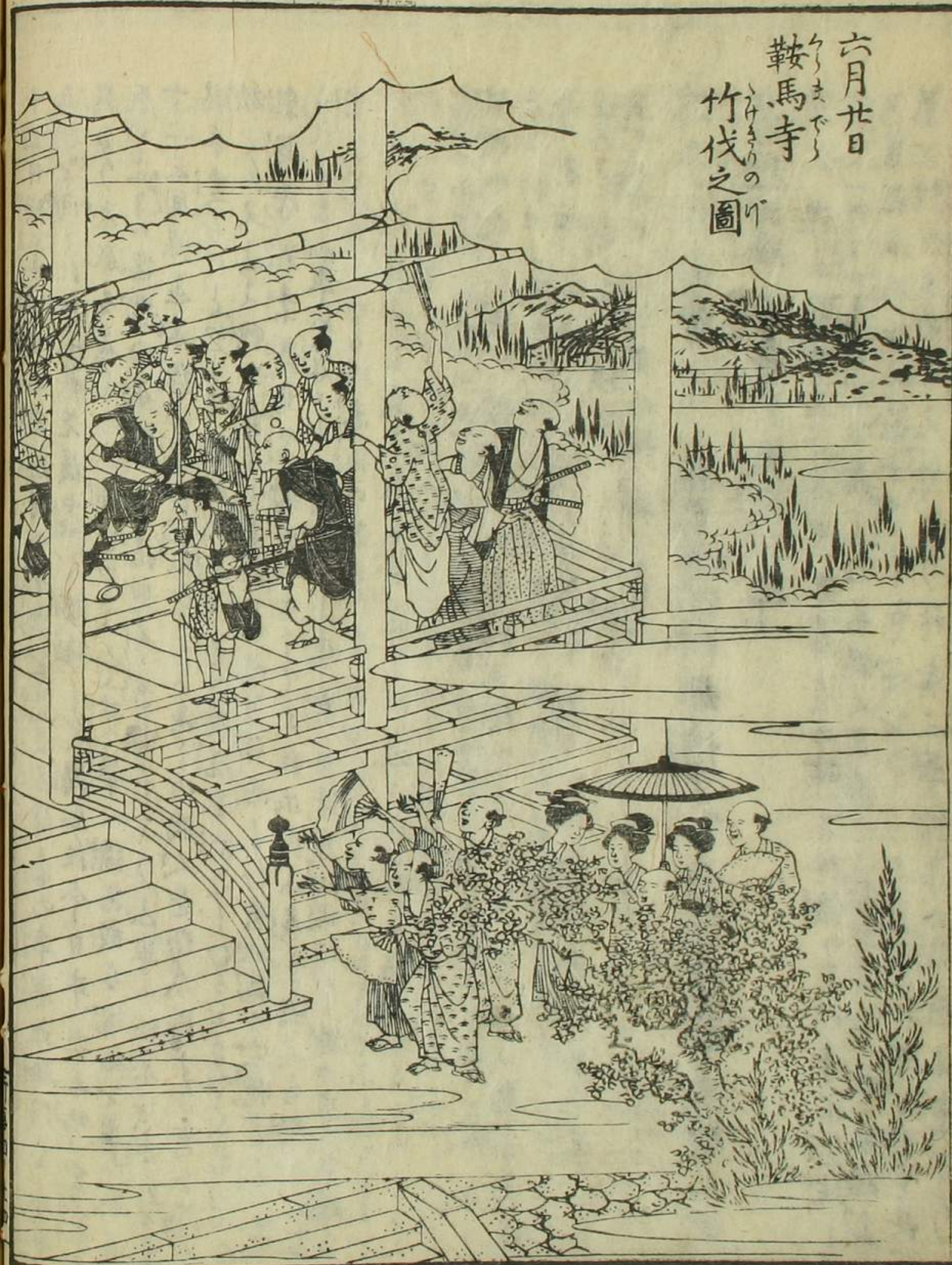
と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

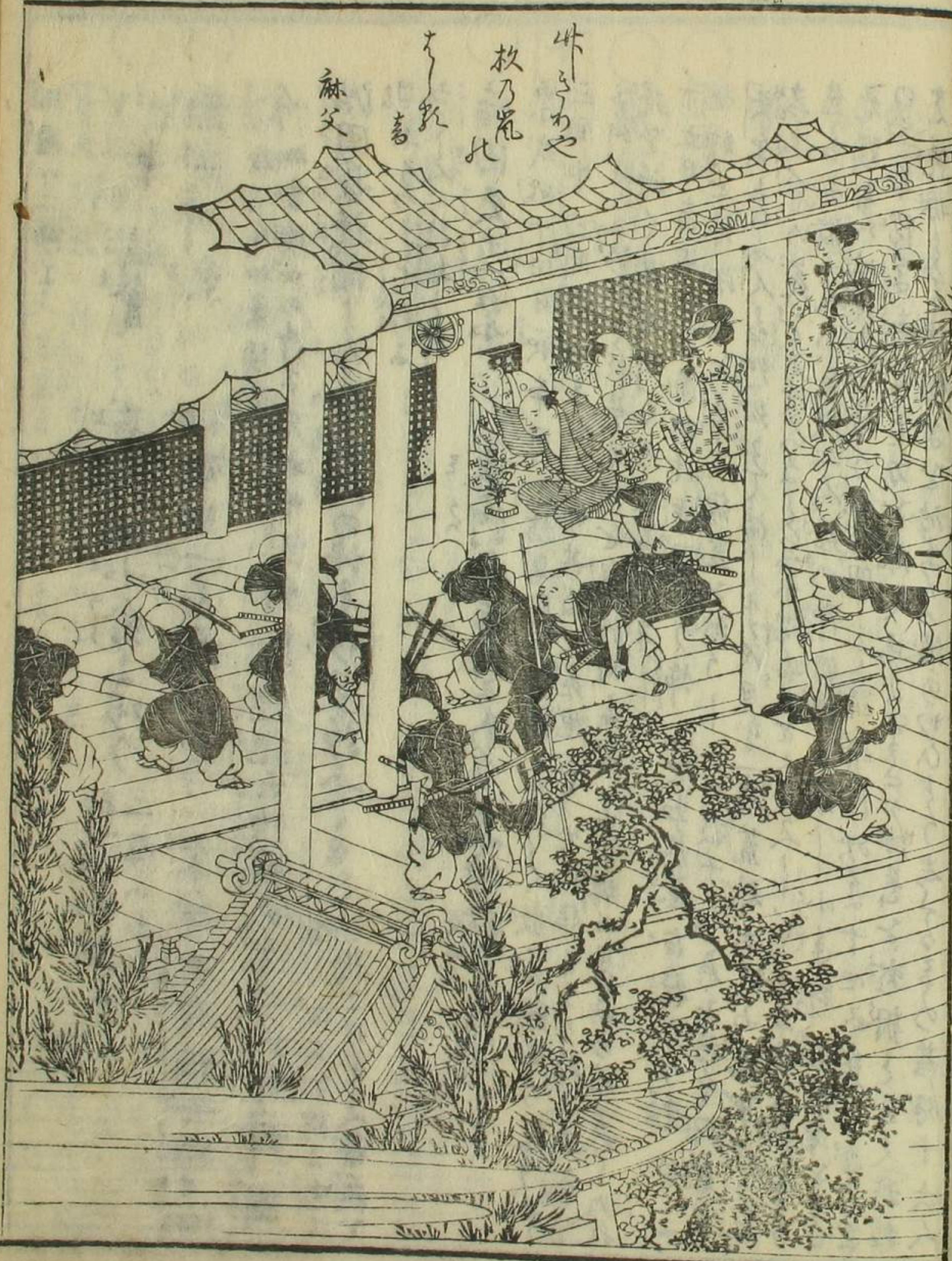
と云ふ所傳云々

と云ふ所傳云々

六月廿日
鞍馬寺
竹伐之圖



竹伐之圖
鞍馬寺
六月廿日



糸式圖重
二編ふし

系神天津稚女稚日女

社記云欽明天皇の御宇倭國

活くわくと長ながさの捷くさ團ぐんより
 加かう良ら洲その地ち本ほん移うつり終しまふと云いふ
 白はく人にん白はく土どと紙しは色いろて
 白はく粉こなは竹たけぞうの葉は粉こなと

男ふうん
るぞうん
持物
とん

卷河至吉田あり衆神祇墨ふ門ト

京式帳 十日 我 奉 用 上 馬 所 の 兩 所 は 於 ち 敵 花 炮 あり 吾 等 十
 二 間 中 三 間 許 の 立 地 と 揚 其 後 大 花 炮 あり 火 の 接 ら ざる 様 子 大 火 を
 發 射 せ ば 煙 の 上 へ 是 火 火 と 揚 け 附 け 上 へ 飛 び 見 物 の 人 多 く ぬ け
 逃 げ 被 け 其 後 附 け の 敵 花 炮 多 かり
 十 五 日 吉 岡 の 五 箇 所 北 寺 院 より 飾 山 と 峯 甚 古 種 あり 先 鋒 十
 挺 炮 と 付 活 夜 と 名 一 挺 笠 と 被 け 一 人 の 敵 十 人 此 を 拵 け 同 日 吾 等
 天皇 と 一 人 の 何 故 して 捕 け ば 日 中 一 乃 荒 井 あ げ ぬ 橋 中 渡 見 坂
 名 匠 ぐ の 花 と 足 上 へ 一 人 の 敵 奇 と 一 人 一 人 捕 け ば 毎 日 一 人
 是 處 を 被 け 一 人 小 笠 被 け 二 人 強 の 陣 羽 織 と 名 一 小 笠 脚 當 け 所 一 人
 免 頭 あり 笠 笠 と 被 け 一 人 慶 面 一 人 踊 躍 け 次 一 人 十 二 人 案 の 意 全
 の 立 馬 帽 子 一 人 夜 左 刀 と 佩 け 馬 又 一 人 古 井 是 を 殺 却 と 云 又 殺 却
 名 乳 母 と 一 人 綿 帽 子 と 被 け 一 人 緋 の 羽 子 一 人 是 等 の 其 後 十 六 人

大坂

三津八幡系
難波牛頭天王系

大坂橋本町小あり 糸井八幡文
 橋津^{はつり}玉^{うたま}西成郡^{うんた}新^{しん}波^は村^{むら}

今日桑乳移る也
等あり

十六日
○
嘉^う定^{ぢやう}喰^{ぐい}

世^セ續^{ゾク}同^{ドウ}卷^{クワン}云^{クモウ}仁^ニ明^{メイ}天^{テン}皇^{クワン}二^ニ年^{ネン}六^{ロク}月^{ゲツ}十^{ジュウ}六^{ロク}日^{ニチ}豐^{トウ}後^ゴ

関^{くわん}わ^わ白^{はく}兎^う電^{でん}と^と献^{けん}に^に以^{もつ}て^て吉^{きつ}兆^{てう}と^とて^て種^{しゆ}を^をい^いふ^ふこれ^{これ}より^{より}この^{この}を^を
 赤^う祥^{しやう}の^の儀^ぎあり^{あり}け^けそ^そ更^{さう}は^は本^{ほん}流^{りゅう}あり^{あり}そ^そと^と彼^あ續^{ぞく}の^の流^{りゅう}は^は未^み定^{ぢやう}通^{つう}宝^{ほう}

[illegible]

今同公家協定の律統あり、所留赤宝通宝十六枚とりて
食料と買入れ、指されば其家は福あり、取ふ今にあらざるは例
にあらざり又流通と稱し別を軍に徴の費は取らば武家
信州漢といひ日五色の國を希は然る所の膏衣は去る兩箇ふ
盛者白紙とりくは水はとく是と猪ひ煎じふ賜ふホの俊育
是即十六銭とさうく求借の造なりた家も亦は候あり哉これ方
十六枚一升六合と家人はより其人は是とりく難き法施を渡
て是と執び又去る枚素と賣其上は大幣改三箇と登枚素紙とて

これと修くを修く毎二十六の敷を用ひ給ふ
の人指縫と切て修く其土敷にもの大傍頭の中十六
其先より修くを修く其土敷にもの大傍頭の中十六

伊勢外宮月次系

十六日の黄昏より新宜法の人人物忌等と

伊勢内宮月次系

十六日の黄昏より新宜法の人人物忌等と

志渡寺系

横岐國寒河郡にあり神陀落山清淨光院志渡寺

相國寺園上懺法

上立賣馬九の東にあり後小松院明徳二年

新市靈夏神樂

新市靈夏神樂の建立より用山夏窓園昨占千八百二十石

伊勢内宮月次系

其式外宮より日ト赤引系四十物本綿スセリ

麻大十二斤

酒米十石二石二斗神酒廿五

右國々の神税

酒米十石二石二斗神酒廿五

禁裏より市を納

神主神殿に持ぐは附宮殿の市戸と開く

十人の新宜

其外廣前より松明と立祝詞と持ぐ

青森文仕

十六日平日且宮中へ入命婦女孺など其れ

式あり五節の舞

舞鳥子名舞と奏に

江別三井寺

観音堂の前へ今新西國の納れと焼く

摩耶山系

攝津玉兔原郡よりあり

十八日

祇園寺興洗堂の十四日祇園今日遷物あり又月廿日

南都東大寺

戒壇院千手観音懺法平日の二百分は商賣と

十七日

相國寺園上懺法上立賣馬九の東にあり後小松院明徳二年

新市靈夏神樂

新市靈夏神樂の建立より用山夏窓園昨占千八百二十石

伊勢内宮月次系

其式外宮より日ト赤引系四十物本綿スセリ

麻大十二斤

酒米十石二石二斗神酒廿五

右國々の神税

酒米十石二石二斗神酒廿五

禁裏より市を納

神主神殿に持ぐは附宮殿の市戸と開く

十人の新宜

其外廣前より松明と立祝詞と持ぐ

青森文仕

十六日平日且宮中へ入命婦女孺など其れ

式あり五節の舞

舞鳥子名舞と奏に

江別三井寺

観音堂の前へ今新西國の納れと焼く

摩耶山系

攝津玉兔原郡よりあり

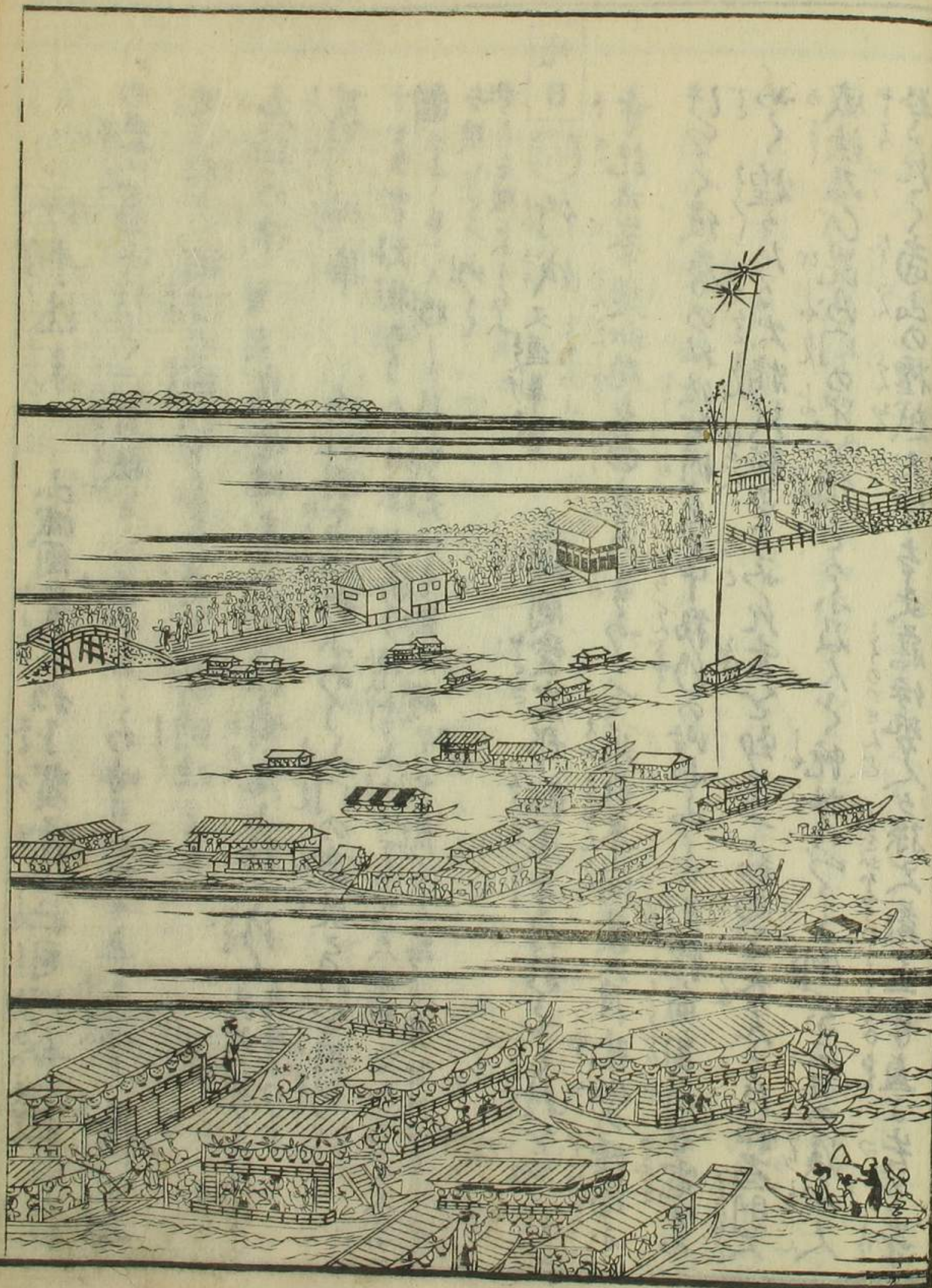
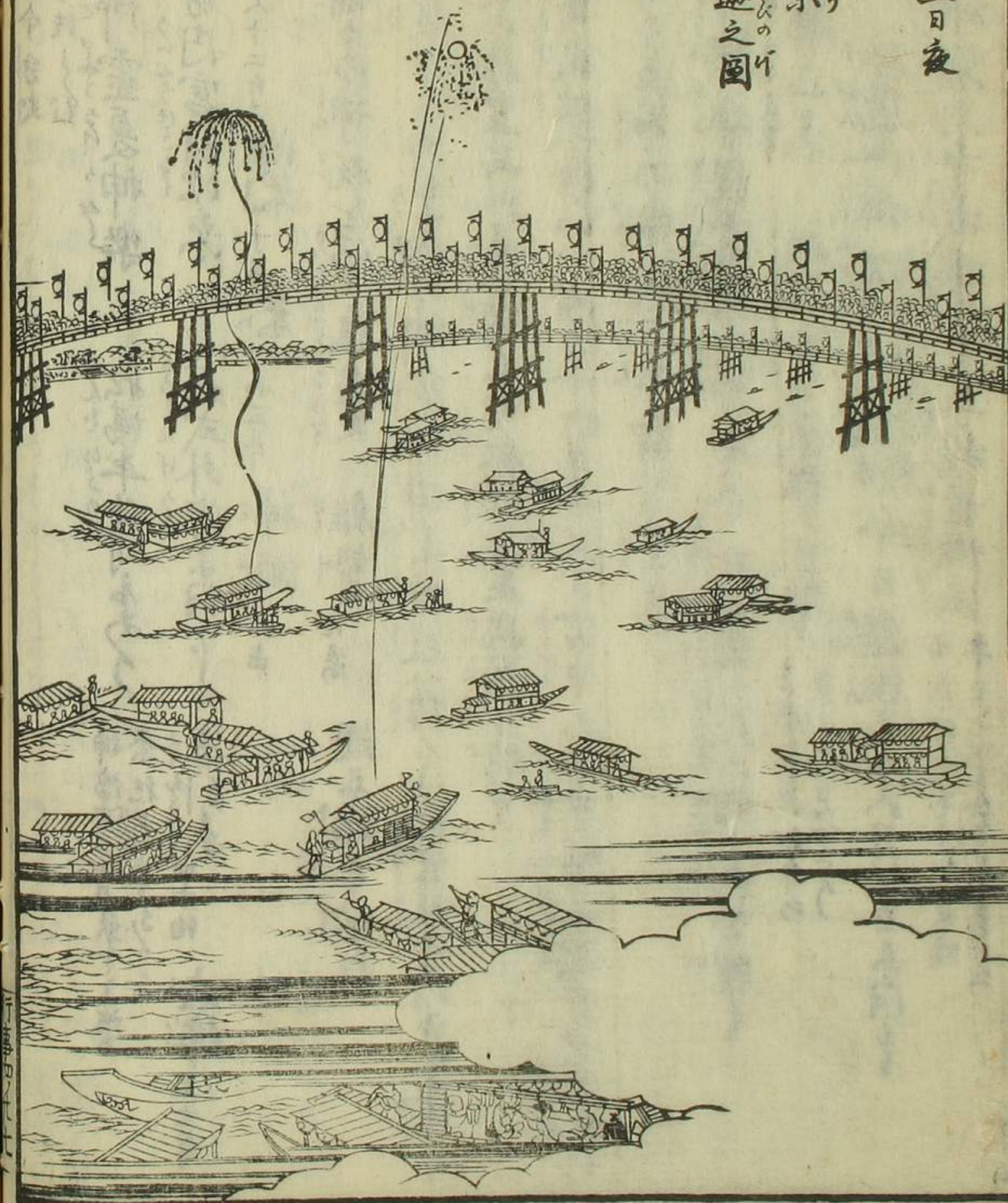
十八日

祇園寺興洗堂の十四日祇園今日遷物あり又月廿日

南都東大寺

戒壇院千手観音懺法平日の二百分は商賣と

六月廿五日夜
大坂
天満系
永遊之園



藥師佛と天竺紙國精舎の別院療病院具安ぶる所の靈像にこそ
牟那村上天皇天徳三年橘行平卿因懐の守たりし時海底より得
所より南寺の地を新平の宅地なり

廿二日 ○梅尾重拂 今日より
山城園愛宕郡梅ヶ畑に中じあり

矢の屏風其外花叢大酢の像起るとも時正の松中三巻時恵上人
 千進ありぬるゑん空の二書隔年み虫掛あり石樹の死漢像
 惠日坊城懸が裏の時恵上人の像とよみ自賛あり寔間法眼が恵く十二

國降自贊像其外大蛇國昨の墨の救恤親写此像
玉師の書若干中二花主古怪わ書の書寫虚堂の達
雲の月と多牧漢の親書就虎狼鶴此画陵伝忠が十王の像
破同が十六羅漢の像揮月書画く下の五百羅漢百幅其像
倫有者多一筆死よりふ迄ありん

新編 夏神樂 懋芳岡あり 衆神仁徳天皇及正天皇元年
勅よりて大坂平野に鎮座正年間今の地に移さる御殿の歌

攝津總社難波皇太神宮と書に世々稲荷と云ふ訛有り

新開傾城廓を珍と賜く神無邊の祈へを被と早く世よ清被
を被とて屋敷と延上りて屋敷の薄さ多く積りて其中に被と
さ人投頭中と被りてこれとあつ仕者これ被早てちふ積り幸之馬屋所
より出るを被成
定付を被りて
さ
摩訶波
神功皇后三韓帰朝の時神武

神功皇后三韓歸朔の時神武

今日芭蕉の病むる日、平目の舟渡り。夏日の
山は、千日、宿より一法寺院のふ日、宿に其例あり。夏日
の山は、千日、宿より一法寺院のふ日、宿に其例あり。夏日
の山は、千日、宿より一法寺院のふ日、宿に其例あり。夏日
の山は、千日、宿より一法寺院のふ日、宿に其例あり。夏日
の山は、千日、宿より一法寺院のふ日、宿に其例あり。夏日

六月晦日
夏越祓
之図



千載
麻のぼら後
ゆきうけて
夏越祓の
すゝも
後永寺通
わ



廿五日

二十八紐 画像南堂手書の賛あり
其の 名 画 教多あり

法然上人一枚起信乃以靈寶

寺の縁起三編又貝多羅葉其長五尺許あり
 其綴格く（ようちやく）の靈宝多し
 古く（きん）聖王（せいおう）の勅（しつ）書（しよ）あり

あり要はちふ義家甲冑の給有古物之

出所 河原の車にあり
大珠^{ゴザ}数^ズゆる度と二月 桑下^{クワゲ}にあり

人皇六十二代村上天皇文曆年中此地より一葉

大

[illegible]

A circular stamp or seal, possibly a library or collection mark, located at the bottom center of the page. It appears to be a simple circular outline with some internal detail that is difficult to discern.

卷之四

○

河内^{くわうち} 玉丹^{ぎんぎ} 北^{きた} 郡^{ぐん} 大塚^{おほつか} 村^{むら} 本^{もと} 同^{どう} 皇子^{みこ} の 墳^{ふん} の 上^{うへ} に 社^{やしろ} あり 里^{さと} 倍^{ばい}

微書記

廿六日

春日祭

河内美濃郡大縣村あり

大縣山井法若也

日永嶽祭

越前美野郡にあり

伊都奈積現の愛化

阿蘇祭

肥後國阿蘇郡あり

阿蘇武甕龍令阿蘇姫

國造速魂玉令かり

神傳云健甕龍令は神武天皇の御孫なり

神八井耳令子あり

と要給ひて子と生れ速魂玉令と名く

累乃天皇十八年六月十六日天皇遣國より

人承形天皇曰人育や否や時止二神出給ひて曰阿蘇美阿蘇

都媛の二人あり何ぞ人ぞれとせやと云く

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

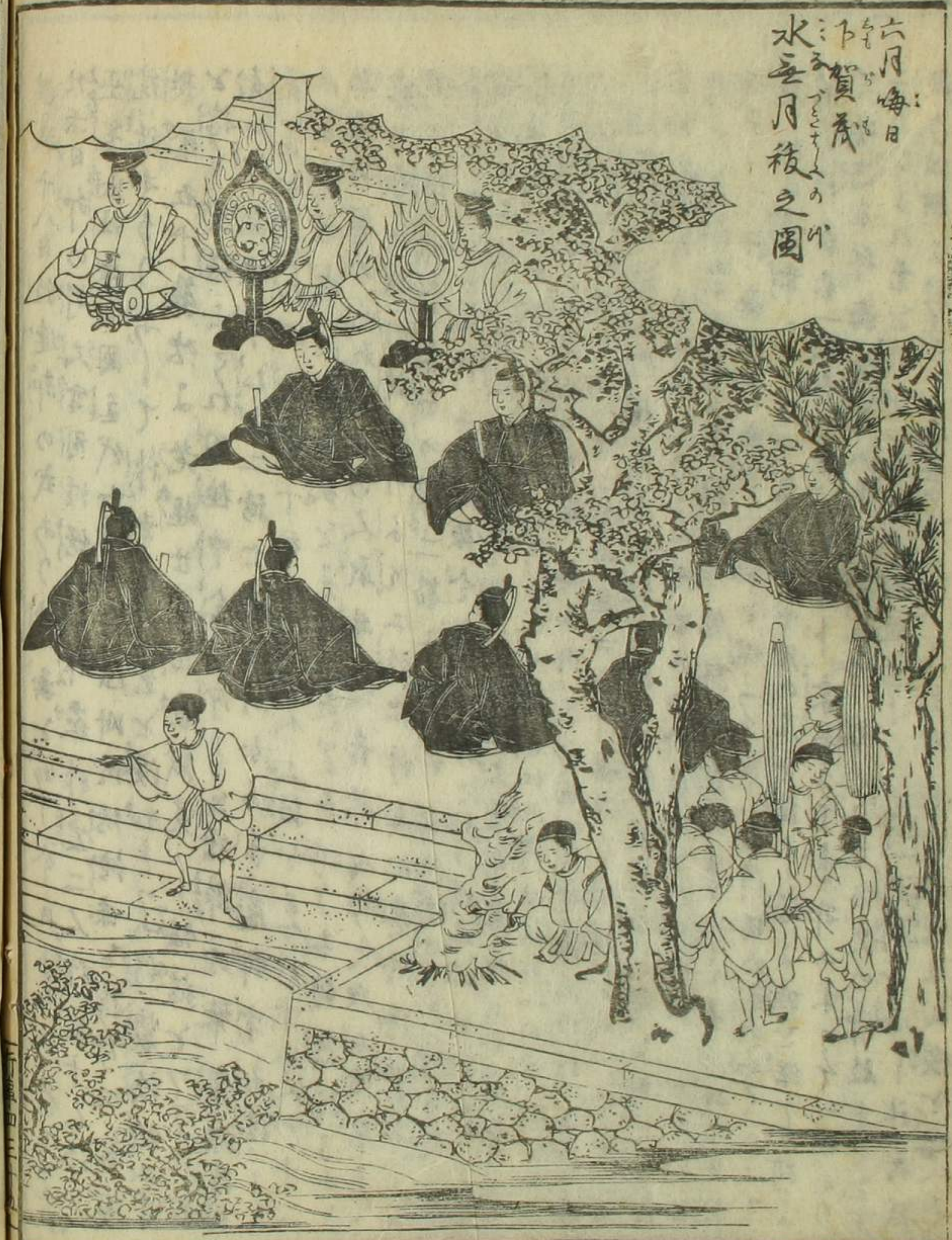
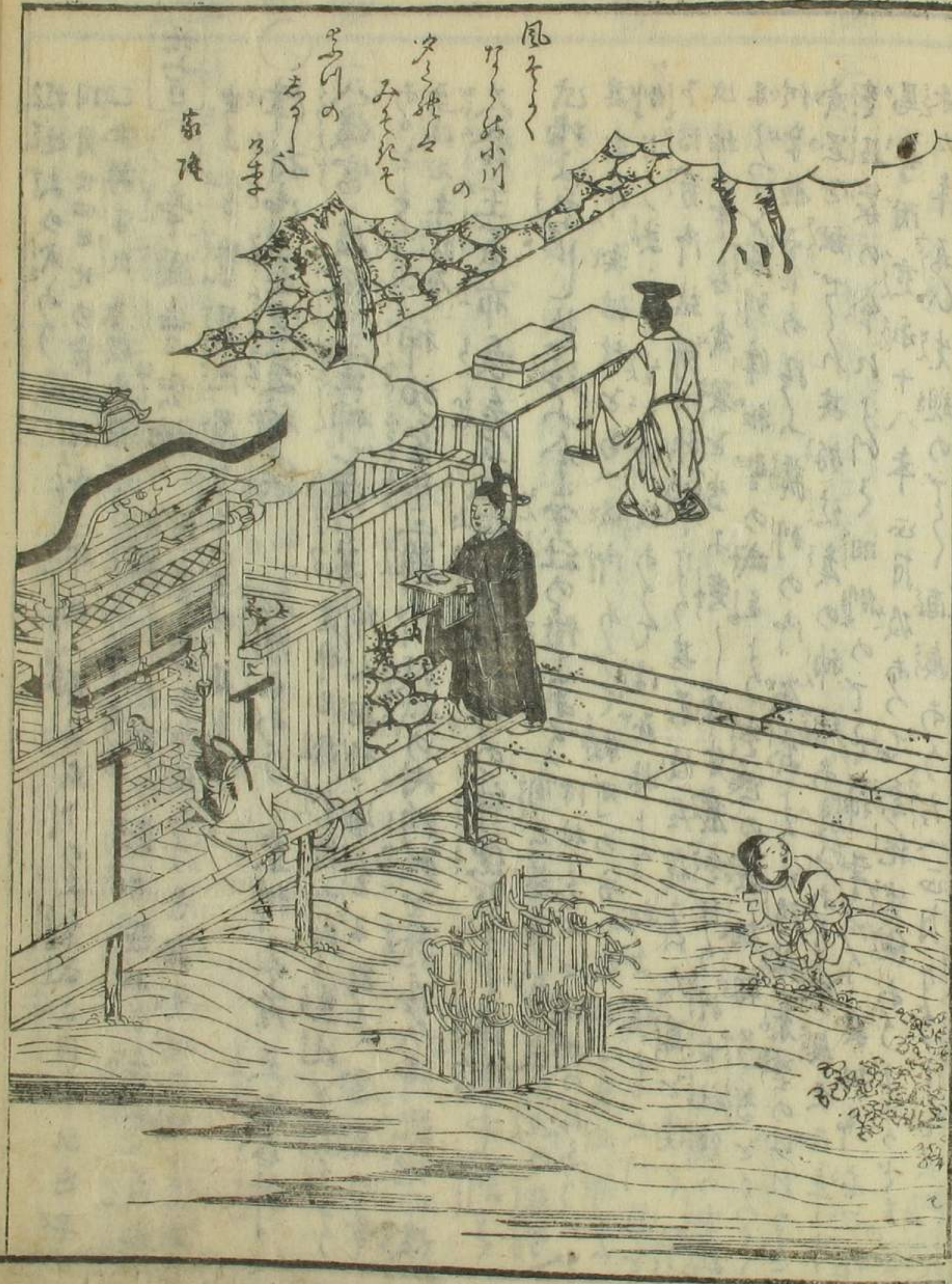
其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日

其式十八日



と船月の行とて此とてまふ人おちとせ乃余はとてふなり

うゑ
は奇賦であふふとせり清く芳くあう清く
おろけうとくさんすのき
清く芳くあう清く

廿一日
 廿二日
 廿三日
 廿四日
 廿五日
 廿六日
 廿七日
 廿八日
 廿九日
 三十日

三才奇鑑

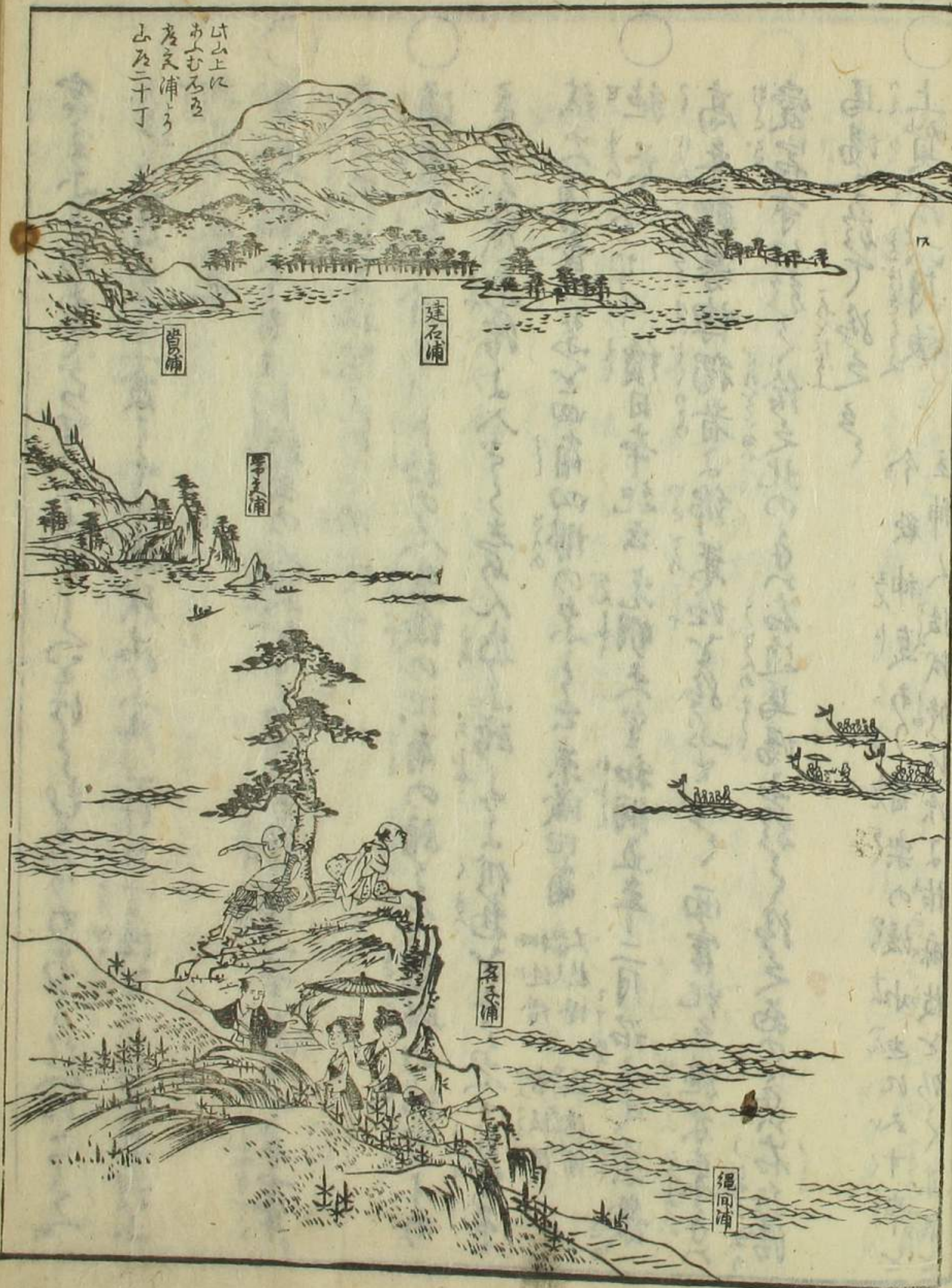
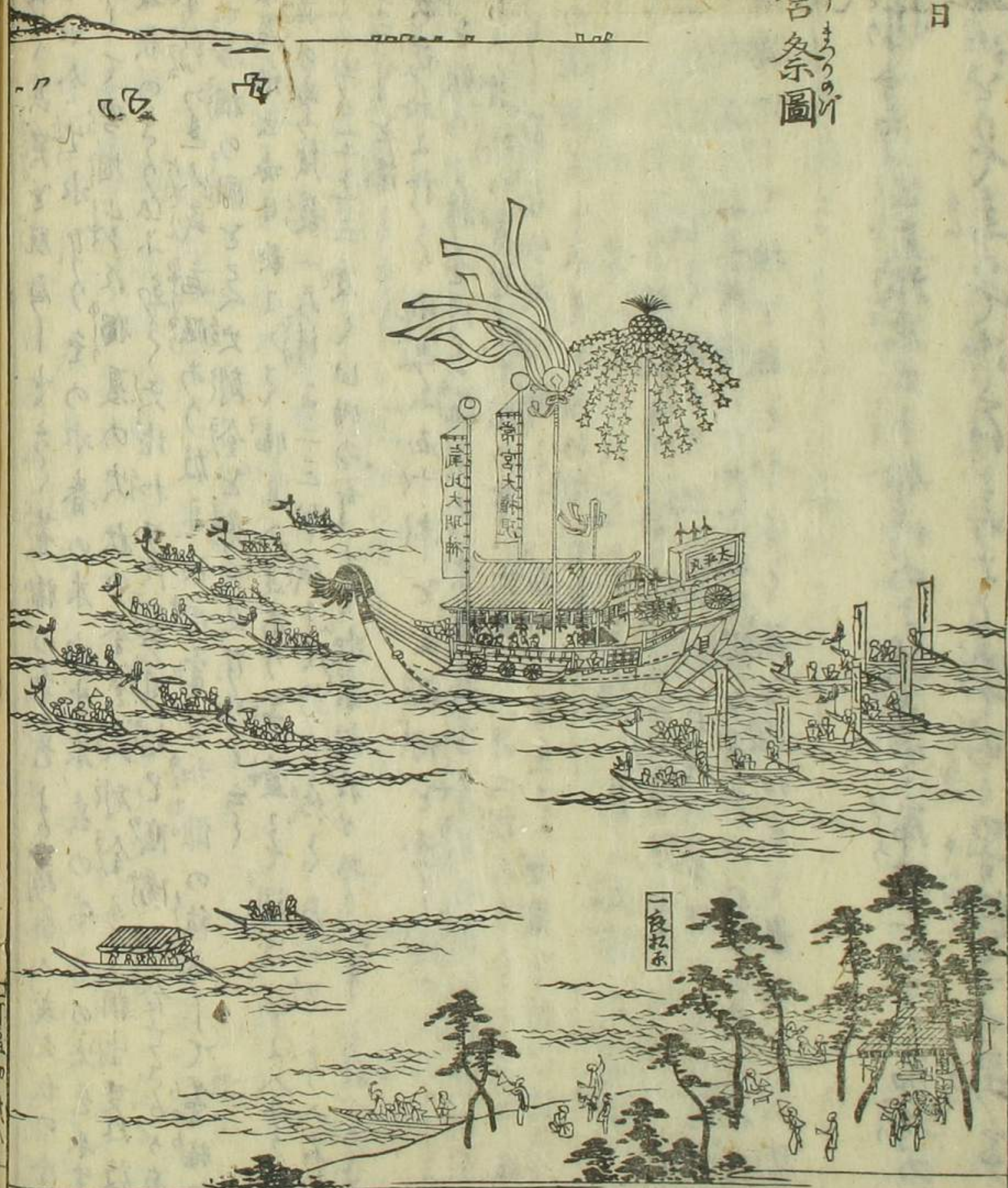
土市門家名越後と禁裏及び院々各々所藏小舎人紀氏より
 費となす

是を名越のさう人も荒和の後にも云名越の不祥と解降復を
越て千枚に至人とする云名越の畧あり荒和の荒和と和備
の公易や万系に和備後と書てナコシノハフと訓む
今日松社は茅の輪を作て病人をさうひひ神社考云素盞鳴高南
海の女子と通ふ日の夢は舍の宿と巨旦將來にさう巨旦独ん
巨旦が才獲民將來にさう獲民降して宿せぬ素盞箕と坐さ
素盞の版と越る其後八年有て神其八子と降る獲民が衆はさう
さう茅輪を作さうひひ其衆大下度處大のふ仍て是人民記する
その衆をさうひひ獲民が衆さうり衆さう事と降さうり此時神
御て曰今より正度度病起さば獲民將來が子孫と云て茅の輪

と傳ふ其災を脱身せしむ。蒼龍の事はより始まる或云秋の全
その水金生水なり。その水春の本水生本妻の本夏の火是本生
火よりて相生なり。獨夏の秋秋の金生水相生なり。故
に夏秋の相生は不即く天地わだかま暴風起る陰陽配合するあり
天地一氣相の回をえ大郊金と免る変なりと云く
清陽底記云毎日教入る胸中入更あり芽蓋して細肉歸入中の
事麻の糸成長一長二短は二二半紙にけり物くら左の是より入右の
是より出る三上三度くけ付の奇しくお泉式於が母い事なるもの
今我々がこれに於て水五十五串と五福洞と漢と後の式あり
取代を修りて物を川に流す是素盞鳴子足風の爪と被其罪を
あつくり神代の義りり大後之事は六月十二月二夜あり今十二月の後
絶てり。辭分の疾厄拂いて人の門に立ちて惡鬼を送ひ給ひと
ゆるの祝語をうんは大後の微意なり
因云市梅抽の事いかに富貴の家より又遠き人
死よりよりのあり皆れあつたり其の世より立ちて死代りて
清で神前に白糸持下しの袖と袖に後の具かり又後社小
祭清澤にて神をおさ今多く歳を用ゆ是と散歳とりし時

節折今折 公豆今豆 招源今招 云ト 部竹今部 のよ今よ 氏庭今氏 中今中 席今席 上今上 小今小 筋折今筋 の
令今令 輝今輝 竹今竹 とりて 糸今糸 ありて 滑今滑 けり ち今ち わさ今わ ぎ今ぎ めて 而今而 くのす 法今法 と ち今ち わ 果今果 ち ず

六月卯日
越前
常宮祭圖



宮主ふさあてがせく清くくをほくむるなりあつたにこそ
とて二度あう二度く福成ゆ清けけのす法とて其の
相あてぐ也

○漢史案 今あト社氏の人史とて文城の口乃すみそ事
あり大史とあせぐんのめせき

○道郷養案 今あト社の人系族の口角の路とて鬼魅の他方より
こころ系系入るるあふ路とて他方とてあてき

○結火道案 今あト四角四隅の系と云系族口角
施系 今あト續日本紀云元明天皇和銅五年二月詔して系族
高年鰥寡博獨者に綿束給ふと云西宮紀云施系東に

○愛宕寺に於て給之北のま右近馬場に於て給之西のま右近馬場
馬場と給て給之

○上賀茂六月後 今あト神人後成修に次は麻枝と云く本偶と
今あト神人後成修に次は麻枝と云く本偶と

○下賀茂六月後 今あト神人後成修に次は麻枝と云く本偶と
今あト神人後成修に次は麻枝と云く本偶と

○其の神社に於て六月後あり板屋を内も違あぐ
其の神社に於て六月後あり板屋を内も違あぐ

○廣隆寺六月後 活而を泰にあり寺僧修之
活而を泰にあり寺僧修之

○東瀧 北白川 松崎 石敷 西園寺の系 西園寺の系 西園寺の系
東瀧 北白川 松崎 石敷 西園寺の系 西園寺の系 西園寺の系

○下御霊 左奈本嶋 貴布祿 神明社
下御霊 左奈本嶋 貴布祿 神明社

○廣隆寺六月後 活而を泰にあり寺僧修之
活而を泰にあり寺僧修之

○廣隆寺六月後 活而を泰にあり寺僧修之
活而を泰にあり寺僧修之

今日泉涌寺。建仁寺。般若院。廬山寺。遣迎院等。

其外律院（一）を以て内布薩（ふさく）と云ふ譯（トウワダ）と云ふ又苦（くる）宿（しゆく）と云ふ

江都沈神社六月後妻く二編より

玉造稻荷夏神樂
攝津國東成郡玉造郷にあり
垂仁天皇

十八年 勃清 糸神五座 倉稻魂令 稚日女尊 軻遇突智令 月讀尊

下照那令

旧今の地より十町南
 の地は移る苗社より大
 嶺あり
 長八
 年豊
 家再
 真ありて今

倭
臣
若
渟
媛
振
津
國
臣
若
郡
少
阿
神
代
卷
云
伊
弉
諾
尊
尊
鏡
尊

日向小戸橋檣原に至る被除路に興言曰上瀬は是太疾下瀬は是太弱

便中瀕小濯^{中署}又海底小沈^よ濯^よ周^よて以^よ生^よ神^よ底^よ津^よ小童^よ命^よと歸^よ

底筒男令又潮中に潜躍して因て以生神跡て中津少童令をさうに

次中筒男令又潮上うしほ上うへ浮うき濯すすぐて因よて以もつ生なま神かみ歸かへて表うへ津つ少すこ童どう令ををもたして

表筒男令 其底筒男令 中筒男令 表筒男令 是即佐吉之袖矣

當社御眞座と素由天皇七郎（うりやう）
 乃命（ののみこと） 乃命（ののみこと） 乃命（ののみこと）

地^ちと垂^{たれ}多^{おほく}人^{ひと}通^{とお}至^{いたる}國^{くに}の^の邊^へ
邊^へ丹^{たん}隆^{りゅう}願^{がん}后^{こう}神^{しん}功^{こう}皇^{こう}后^{こう}

其式六月小初はつ日ひ附つき九月く朔しやく用もち西にし今日けふ神かみ輿こをを昇あぐりてて倭やまと者ものの神かみ号なあり

[illegible]

引 桑 廣 益 七 雲 乃 大 小 瘡 十 種 雲 乃 車 輪 子 爲

今月郡平野の坂の上の家より花笠とて
 宿院の坂の上の家より花笠とて
 宿院の坂の上の家より花笠とて

入方は附の地人船長漢那の事毎に距と云

文庫
 復
 千
 石の
 庫
 百の
 列
 奥
 際
 作
 意
 田
 一
 号を

大坂の堀人あなうぢ或は船ふね持もの賣人うりんど水みづ主しゅに大和やまと藩はんの藩はんより
 船ふね度ど

て科擧を導ふ是と佐吉の火勢とよりと我々

龜原佐吉象
 攝津五龜原卯生
 吉村の三申
 天竺山由利

八幡宮 中二
神功皇后 中三
三箇男申 中四
以上
尚社神 承石方

硬石より去用より

一、
二、
三、

○貴布祿系 攝津玉河邑郡尾崎西所あり 系神 同象女神

○神祖神 別雷神 以上 元正天皇の御宇 勅遷は地の生去神とん

○森宮神田植 日本末成郡小あり

○辛崎系 近江玉滋賀郡あり 系神 女別當 王太宮初歌の地

○飯沼社神田植 信濃玉あり 幸ハ三月酉の日 藤島社あり

○巫覡舞樂系 奏し 苗を神田に植 幸ハ三十日と云々 八月廿日登りて

○磐石系 河内玉交野郡私市村の東北所 幸ハ山中に岩に藏あり

二十丈竹板三十丈竹板と云々 土人住吉神と云々 今日詣人々

頭をさかして 雨と利ふに 忽ち ありと云

諸國

○中卯日 常宮系 越前國敦賀あり 系神 仲夏天皇 神功皇后

其式 敦賀の漢より 神人 仲夏天皇 神功皇后 あり 今日辰

土用 四時三百六十五日有奇と云々 幸ハ九月十一日 幸ハ中

本夏秋金を水と名主 本夏金あり 幸ハ土用 幸ハ土用

四時の終る 幸ハ土用 幸ハ土用 幸ハ土用 幸ハ土用

土用の初中後 禁裡乃び高貴の家に 幸ハ土用 幸ハ土用

是と御迷の利と云々 幸ハ土用 幸ハ土用 幸ハ土用 幸ハ土用

○陰陽師大里清水合の支と勤む

○曇華院より乾風と秋ふ

○ち二条殿の池水あり是世の二条殿の池也夏日
池水と冷しく禁裏に秋ふ今より其例と追ひ土用中禁裏
池と秋ふ

○上の所倉立入氏中の所倉多氏東寺氏と禁裏に秋ふ

○土用中の五日下禁裏に川は流るゝ病疾と瘧と云へば人君と云へ

○はる大坂難波新地小笠と夕涼あり或又樓船中持し難波橋より見る

○月より納涼に毎秋曉ふ御座る秋の音河風ふ舞う其流ひよりあり

○攝河河邊郡菟原宿古の社あり四の石あり輕石と云ふ水より見る
水も涌る毎年来用ひ事より自水は湧る旱よりともみ水増減
なく土用する水潤くえの心一奇なり

諸國年中行事大成卷之四終

行事四ノ四十二

○宮田先生詳編國字新書

羣玉堂精鐫發行

翻譯 畫本通俗兩國志

繪像圖字より譯す事
餘卷連續し一冊に成る

○本書は宋金兩國の合戦七十余年の事跡を記し書
り漢字はし。海字を以て國字と稱す。宋金兩國の事
の事蹟より事乱れ終る古今なる大元はし。諸國の事蹟より事
の事蹟より人々を以て事蹟と稱す。宋金兩國の事蹟より事
の事蹟より。歷代より皇統を實し。遼國全盛西國の統清河其際より附
。結中文中。司馬光歐陽修蘇東坡程顥程頤周茂叔張載邵雍
を以て賢相名儒と稱す。遺金より事蹟を記し。三冊に編み。一
天宗金の大合戦を仔細に述す。綱目馬宗漢張叔夜岳飛張浚韓世

忠孝の忠孝。勇烈の勇烈。張邦昌。秦檜。劉豫。等が。元。本。幹。内。不。
祐。波。喝。健。頼。等。の。凶。暴。行。り。未。だ。あ。ら。う。未。だ。無。陸。故。に。頼。陸。九。淵。等。の
全。信。金。亮。が。矯。皇。暴。酷。其。外。李。若。水。曲。端。吳。玠。等。の。大。臣。等。の。或。を
金。國。有。名。の。軍。全。部。の。名。を。相。頭。れ。勝。中。に。居。る。と。画。本。の。然。し。正。史。
を。引。據。し。書。所。未。く。本。亦。記。さ。れ。た。然。然。と。數。万。卷。の。史。冊。に。
重。家。の。軍。史。書。所。未。推。搗。も。な。れ。と。先。生。博。識。の。力。決。然。と。て。な。る。
全。集。せ。れ。る。常。の。画。本。の。千。万。倍。の。多。さ。の。り。と。近。來。あ。ら。う。と。
又。書。る。且。大。中。の。補。條。と。な。る。亦。先。生。の。批。評。を。如。れ。た。り。も。其。た。
小。か。の。さ。ら。に。滅。宋。遼。金。三。史。繼。承。の。平。し。も。の。は。魁。本。の。體。裁。を。か。た。
希。ふ。四。方。の。君。子。傳。編。追。く。出。板。の。節。序。厚。意。を。彰。の。事。と。あり。

大坂書肆 羣玉堂主人 欽白

近代世事談

東都俳林沾涼大人著
全部五冊合卷三冊

此書、東山殿より以來、其服食、菓草、木花、泉石、財物、近代表、船の年、
諸流、書画、詩歌、運、香、茶、生、花、遊、藝、及、芝、居、水、の、起、原、人、倫、雜、事、年、中、
行、事、故、實、何、い、つ、の、頃、と、知、し、と、事、と、數、載、し、入、り、置、て、傳、播、の、捷、
徑、と、す。

近代世事談二編

楠里亭主人著
全部五冊繪入

此書、天地萬物の廣事、小冊、盡、さ、う、り、然、し、物、用、不、用、の、事、
亦、く、原、始、の、知、り、と、詳、し、と、世、の、行、や、い、ふ、も、百、有、餘、年、の、性、音、と、あり、遺、
漏、し、ま、ら、ぬ、故、に、今、二、編、と、續、け、近、代、の、草、木、氣、形、食、茶、の、類、百、年、來、の、變、遷、
船、時、實、體、要、用、と、詳、し、と、畫、圖、と、頭、に、は、所、謂、サ、ラ、ミ、ク、ミ、ヤ、等、是、と、り、性、音、相、
模、耳、實、體、と、指、さ、る、事、餘、夜、有、越、曲、高、砂、老、松、の、歌、古、鐵、の、奇、事、駭、異、す、十、

伊勢三郎義盛 八判官家の子に生れし者なり
 乃法名性照と号し治承元年謀叛し、乃て鬼界へ逐れ
 後赦免され、双林寺に預けられたる時、忽ち尾加野間小
 佐内平物 延壽 久遠國青長長者の娘を娶ひ、甚だ
 美なり。而も其朝は、佐々木朝亡びて後尾加野間の義敷
 氏田藤十郎ハ越後の人上にて、彼者より天皇和宮の上よりて
 貴き者なり。其宝永六年卒し、三子あり。其の長は、
 字といはれ、乃て早朝と号す。其朝の出立、平物 日本
 杯と書し、其朝と求むる便なり。む。古今人の好悪、
 殊と云ふに、先け書し、其朝と云ふを、其朝の群と
 因と云ふの費へる、其朝と云ふ、其朝の大金なり

画圖

春曉齋速水恒章



諸國
圖會

年中行事大成

全部六冊

從正月至六月出来

從七月至十二月迄刻

同

二編

全部六冊

未刻

此書は、先づ編み、其所の神社佛閣、系式、行事、其記、
 國々其地、ふたつ、旧例、乃奇事、或是、其記

文化三丙寅春刻成

攝陽書肆

河内屋茂兵衛
吉文字屋市左衛門
河内屋太助

皇都書林

長村半兵衛
細野十右衛門
須原屋平左衛門
松屋市郎兵衛
丁子屋九郎右衛門
丸屋善兵衛

丹陽龜山

須田十右衛門

群玉堂中より來船の唐本類かびくし所
持仕の間唐本法帖等御用の節に御注文奉希
和本の儀に三都發兌の書籍あり名古屋を始
諸國の御藏版物當時流行江戸板の繪入讀本
やぐ新本古本澤山仕入置御座いる貸本の仕
込且聊の小本といふと不相替御用被仰付被下
の程偏に奉願上ひ以上

書林

大改心齋橋ばくろ町筋角
群玉堂

河内屋茂兵衛

